RPSJ
NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会総会 2014

2014（平成 **26**）年 **11** 月 **1** 日～**2** 日

柵原総合文化センター（岡山県久米郡美咲町）
片上鉄道保存会（美咲町吉ケ原・旧吉ヶ原駅付近）
西日本旅客鉄道株式会社 旧津山扇形機関車庫

は　じ　め　に

日本鉄道保存協会は今年で満 23 歳となりました。当初の正会員は 14 団体でしたが、今年はついに 44 団体、当初の 3 倍を超えました。当初は鉄道車輌の動態保存団体だけを正会員として出発しましたが、その後は有力な博物館、意欲にあふれる地方自治体、ボランティアのグループなども加わり、多彩な顔ぶれがそろってきました。まことに喜ばしいことであります。

本年は、東北の栗原市と四国の西条市を新会員として迎え、総会は岡山県美咲町で開催し、見学会では日本における保存活動の模範事例の一つである片上鉄道保存会と JR 西日本の旧津山扇形機関車庫を訪問することになりました。このような特色ある見学会を開催できるのは、ひとえに関係者と地元の皆様のご厚意のおかげで、ここに厚くお礼申し上げます。

政権交代後、日本経済はようやく長い不況から脱出するかに見えましたが、リニア新幹線やオリンピック開催のニュースが期待感を盛り上げる一面、4 月に実施された消費税引き上げの影響については予断を許さないものがあり、欧米の経済状況や、不安定さを増す近隣諸国との関係など、多くの不安材料を抱えています。

このような先の見えない世の中にあって、いまの日本人は、一方で成長と繁栄に期待をつなぎながらも、他方では内面的な精神の安定と文化の豊かさを求めていると言えましょう。日本の近代化を牽引した鉄道が残した遺産を保存し、その価値を後世に伝える私たちの活動は、現代の日本人の心の底にある欲求に添うものであり、近年の鉄道ブームを単なる流行に終わらせないよう、理解者と支援者を増やす努力を続けたいと思います。

また、来年は世界保存鉄道協会の大会を日本で開催すべく、準備を進めております。海外の先進事例に私たちが学ぶだけでなく、多くの日本人に知ってもらう好機であり、当協会の今後の発展に有用な事業と考えます。

正会員が 50 に近づいた今年は、私どもの足下を固めるためにさらに努力を重ね、正会員、賛助会員、友の会会員各位のご理解とご協力を得ながら、前進を期したいと思います

2014 年 11 月 1 日

日本鉄道保存協会代表幹事団体
公益財団法人交通協力会　会長

菅　　建　彦

日 本 鉄 道 保 存 協 会
2014 年度総会・見学会プログラム

日　時　　2014（平成 26）年　11 月 1 日（土）～ 2 日（日）

開催地　　総　　会　　美咲町柵原総合文化センター（岡山県久米郡美咲町久木 200-8）
　　見 学 会　　柵原ふれあい鉱山公園　旧片上鉄道吉ケ原駅周辺
　　（美咲町吉ケ原 394-2）
　　西日本旅客鉄道株式会社　旧津山扇形機関車庫
　　（岡山県津山市大谷）
　　交流会・宿泊　　ゆのごう美春閣　（岡山県美作市中山 1144）

主　催　　日本鉄道保存協会
協　力　　美 咲 町　　片上鉄道保存会　　西日本旅客鉄道株式会社岡山支社

11 月 1 日（土）　　※以下、敬称略

13 時 00 分　　受 付 開 始

14 時 00 分　　開 会 挨 拶
　代表幹事団体　公益財団法人交通協力会　会 長　　菅　　建彦

　開 催 地 挨 拶
　美咲町　町 長　　定本　一友
　岡山県知事　　伊原木 隆太
　岡山県議会議員　　青野　高陽

14 時 15 分　　総　　会

14 時 45 分　　開 催 地 報 告
　①片上鉄道保存会　副代表　　浮田　信明
　　美咲町役場柵原総合支所　産業建設課課長補佐　　大釜　実行
　②西日本旅客鉄道株式会社　岡山支社総務課　　信江　　悟

（休　憩）

15 時 30 分　　事 例 報 告

①遠軽町　丸瀬布総合支所産業課観光係長　　小山　信芳

②小坂鉄道保存会　会 長　　千葉　裕之

③リニア・鉄道館（東海旅客鉄道株式会社）副 長　　吉澤　正克

④西条市　観光交流センター副館長　　佐竹　浩

16 時 30 分　　意 見 交 換

16 時 45 分　　総 会 終 了

特 別 報 告

ベルギー旧国営トラム保存協会 ASVi

（デハ 3499 号車保存会　ゲスト）　　Eric Binamé

17 時 00 分　　終　了

（専用バスで交流会会場へ移動）

18 時 30 分　　交 流 会 開 始

21 時 00 分　　交 流 会 終 了

11 月 2 日（日）

8 時 50 分　　宿泊地出発（以下、移動時は専用バスに乗車）

9 時 20 分　　柵原ふれあい鉱山公園　旧片上鉄道吉ケ原駅・黄福柵原駅周辺見学

10 時 00 分　　黄福柵原駅線路締結記念式典

11 時 00 分　　片上鉄道保存会　展示運転乗車・見学

13 時 30 分　　西日本旅客鉄道株式会社　旧津山扇形機関車庫見学

15 時 00 分頃　　解　散

以　上

日本鉄道保存協会（RPSJ）2014年度総会　出欠一覧表

資　格	所属団体	役　職	氏　名	津山バス	総会	交流会	宿泊	見学会	昼食
顧　問		東京学芸大学名誉教授	青木　栄一	欠　席					
顧　問		英文学者	小池　滋	欠　席					
顧　問	東武博物館	理　事	花上　嘉成	○	○	○	○	○	○
顧　問	公益財団法人　交通協力会	主任研究員	堤　一郎	欠　席					
顧　問	ネコ・パブリッシング	編集局長	名取　紀之	×	○	○	○	○	○
正会員	遠軽町（旧丸瀬布町）	丸瀬布総合支所産業課観光係長	小山　信芳	○	○	○	○	○	○
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）	事務局長	杉本　武勝	○	○	○	○	○	○
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）		熊谷　亨介	○	○	○	○	○	○
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）		清水　孝彰	×	○	○	○	○	×
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）		野本　浩史	○	○	○	○	○	○
正会員	NPO法人　ひがし大雪アーチ橋友の会			欠　席					
正会員	三笠市			欠　席					
正会員	三菱大夕張鉄道保存会			欠　席					
正会員	北海道旅客鉄道株式会社（JR北海道）			欠　席					
正会員	NPO法人　北海道鉄道文化保存会			欠　席					
正会員	小坂鉄道保存会	会　長	千葉　裕之	○	○	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	特別役員	吉野　幸裕	○	○	○	○	○	○
正会員	栗原市			欠　席					
正会員	真岡線SL運行協議会			欠　席					
正会員	けいてつ協会			欠　席					
正会員	鹿島鉄道保存会	代　表	加藤　三千尋	○	○	○	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会	副代表	長津　博樹	○	○	○	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会	副代表	野澤　秀幸	○	○	○	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会	参　与	木瀬　若桜	○	○	○	○	○	○
正会員	鉾田駅保存会	理　事	川津　重夫	○	○	○	○	○	○
正会員	碓氷峠鉄道文化むら （一般財団法人　碓氷峠交流記念財団）			欠　席					
正会員	デハ3499号車保存会	代　表	日暮　成一	○	○	○	○	○	○
正会員	デハ3499号車保存会	ゲスト（ベルギーASVi会員）	Eric Biname	○	○	○	○	○	○
正会員	デハ3499号車保存会	ゲスト（ベルギーASVi会員）	Geoffoy Quinet	○	○	○	○	○	○
正会員	デハ3499号車保存会	ゲスト（ベルギーASVi会員）	Luc Duguenne	○	○	○	○	○	○
正会員	デハ3499号車保存会	ゲスト（ベルギーASVi会員）	Dimitri Cruginaire	○	○	○	○	○	○
正会員	日本工業大学			欠　席					
正会員	秩父鉄道株式会社			欠　席					
正会員	西武鉄道株式会社			欠　席					
正会員	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）			欠　席					
正会員	公益財団法人　東日本鉄道文化財団	鉄道博物館館長代理	荒木　文宏	○	○	○	○	○	○
正会員	一般財団法人　東武博物館	理　事	花上　嘉成	顧問欄に記載					
正会員	公益財団法人　日本ナショナルトラスト			欠　席					
正会員	公益財団法人　交通協力会	会　長	菅　建彦	○	○	○	○	○	○
正会員	横浜市電1156号修復プロジェクト	代　表	齊藤　大起	×	×	×	×	○	○
正会員	上松町（赤沢森林鉄道）			欠　席					
正会員	虹の郷（一般財団法人　伊豆市振興公社）			欠　席					
正会員	大井川鐵道株式会社			欠　席					
正会員	東海旅客鉄道株式会社（JR東海）リニア・鉄道館	副　長	吉澤　正克	○	○	○	○	○	○
正会員	博物館明治村（公益財団法人　明治村）			欠　席					
正会員	長浜鉄道スクエア（公益社団法人　長浜観光協会）			欠　席					
正会員	貨物鉄道博物館			欠　席					
正会員	西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）	岡山支社広報室長	宗定　敏文	×	○	○	×	○	○
正会員	西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）	岡山支社総務課（広報）	信江　悟	×	○	○	×	○	○
正会員	公益財団法人　交通文化振興財団	専務理事	兵東　勇	○	○	○	○	○	○
正会員	公益財団法人　交通文化振興財団	学芸員	島　崇	○	○	○	○	○	○
正会員	加悦SL広場（宮津海陸運輸株式会社）	管理課長	柴田　万喜也	×	○	×	×	×	×
正会員	NPO法人　加悦鐵道保存会			欠　席					
正会員	ふるさと鉄道保存協会	理事長	中井　健二	×	○	×	×	×	×
正会員	片上鉄道保存会	代表幹事	石田　協	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	三原　太一	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	浮田　信明	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	森岡　誠治	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	中元　将人	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	甲本　康則	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	富田　有加里	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	伊原　薫	×	○	○	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会	会　員	高見　英克	×	○	○	○	○	○

資　格	所属団体	役　職	氏　名	津山バス	総会	交流会	宿泊	見学会	昼食
正会員	若桜駅を元気にする会	会　長	藤原　源市	×	○	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	山野　紀雄	×	○	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	小林　誠	×	○	○	×	×	×
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	奈羅尾　寿夫	×	○	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	山本　晴隆	×	○	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事（若桜鉄道株式会社代表取締役社長）	山田　和昭	×	○	○	×	×	×
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	新川　哲也	×	○	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	会　員	竹本　英樹	×	○	○	×	×	×
正会員	若桜駅を元気にする会	事務局（若桜町役場企画財政課）	木地谷　諭	×	○	○	○	○	○
正会員	NPO法人　市民文化財ネットワーク鳥取			欠　席					
正会員	山口線SL運行対策協議会			欠　席					
正会員	西条市	西条市役所観光物産課長	柳原　政彦	○	○	○	×	○	○
正会員	西条市	同観光係長	前谷　浩教	○	○	○	×	○	○
正会員	西条市	同観光交流センター副館長	佐竹　浩	○	○	○	×	○	○
正会員	西条市	同観光交流センター主査	寺田　進	○	○	○	×	○	○
正会員	馬路村			欠　席					
正会員	九州旅客鉄道株式会社（JR九州）	広報室　室長代理	井下　普樹	○	○	○	○	○	○
正会員	北九州線車両保存会	代　表	手嶋　康人	×	○	○	○	○	○
正会員	北九州線車両保存会	会　員	毎熊　晃	×	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社ネコ・パブリッシング			顧問欄に記載					
賛助会員	株式会社鉄道ジャーナル社			欠　席					
賛助会員	日本鉄道写真作家協会	会　長	猪井　貴志	○	○	○	○	○	○
賛助会員	日本鉄道写真作家協会		田中　秀樹	○	○	○	○	○	○
賛助会員	北陸重機工業株式会社			欠　席					
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング	編集主査	河合　桃子	○	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング	企画出版第一編集部	入江　一也	○	○	○	○	○	○
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム	代　表	伊藤　博康	○	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社片上鉄道	代表取締役	森岡　直子	○	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社片上鉄道		平口　高士	○	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社日本旅行	鉄道プロジェクト	瀬端　浩之	○	○	○	○	○	○
賛助会員	株式会社トレインプラン	代表取締役	太田　裕二	×	○	○	○	○	○
友の会会員			赤羽　誠	×	○	○	○	○	○
友の会会員			阿部　豊	欠　席					
友の会会員	イモンコーポレーション	代表取締役	井門　義博	欠　席					
友の会会員			岩野　弘一	○	○	○	○	○	○
友の会会員			遠藤　哲夫	欠　席					
友の会会員	四国電設工業株式会社		加藤　圭哉	○	○	○	○	○	○
友の会会員	東京地下鉄株式会社		倉繁　聡	欠　席					
友の会会員	清水薫　レイルウェイフォトオフィス	代　表	清水　薫	×	○	○	○	○	○
友の会会員	トラベルライター		白川　淳	×	○	○	×	○	×
友の会会員			関田　克孝	欠　席					
友の会会員	日本ナショナルトラスト会員		橘　秀幸	○	○	○	○	○	○
友の会会員			田中　光一	欠　席					
友の会会員	西武鉄道社友会	事務局長	西尾　恵介	欠　席					
友の会会員			藤井　修	欠　席					
友の会会員	公益財団法人　交通道徳協会		水野　弥彦	○	○	○	○	○	○
オブザーバー			神沢　順	×	○	○	○	○	○
オブザーバー	WATTRAIN	理　事	小田　恭一	○	○	○	×	×	×
オブザーバー	デハ601保存会		長野　光芳	○	○	○	○	○	○
オブザーバー			舘田　達也	×	○	×	×	×	×
オブザーバー	七百レールファンクラブ		野田　悟	○	○	○	○	○	○
オブザーバー	四国旅客鉄道株式会社（JR四国）	総合企画本部担当部長	長戸　正二	○	○	○	○	○	○
オブザーバー	ジェイアール四国企画株式会社	部　長	松本　新一	○	○	○	○	○	○
オブザーバー	宇高連絡船愛好會	會　長	三村　卓也	×	○	○	○	○	○
オブザーバー	下津井みなと電車保存会	代　表	高尾　智	×	○	○	○	○	○
オブザーバー	門司港トロッコ応援団	副代表	中嶋　正裕	○	○	○	○	○	○
オブザーバー	門司港トロッコ応援団	副代表補佐	宮永　哲	×	×	×	×	○	○
事務局	日本鉄道保存協会（地域遺産プロデューサー）	事務局長	米山　淳一	○	○	○	○	○	○
事務局	日本鉄道保存協会		佐々木　雅子	○	○	○	○	○	○

日本鉄道保存協会　会員名簿

2014.11.01 現在

＜凡　例＞

番 号	**団　体　名**
〒	団体所在地　／　連絡先住所 電話番号　／　Fax 番号 団体代表者名 RPSJ 担当者名（☆）

正 会 員

01　遠軽町（旧丸瀬布町）

〒099-0203　北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所　産業課
Tel　0158-47-2213　　Fax　0158-47-2128

町　長　　佐々木　修一
観光係長　　小山　信芳（☆）

02　陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）

〒089-4300　北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Te1　0156-27-2244　　Fax　0156-27-2791

会　長　　石橋　　強
副会長　　山本　周二
事務局長　　杉本　武勝（☆）

03　NPO 法人　ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408　北海道河東郡上士幌町上士幌東 3 線
Tel　0156-42-3385　　Fax　0156-42-3682

会　長　　那須　襄太郎
事務局長　　角田　久和（☆）

04　三笠市

〒068-2192　北海道三笠市幸町 2
三笠市役所商工観光課　商工観光係
Tel　0126-72-3997　　Fax　0126-72-7880

市　長　　小林　和男
主　事　　野左近　美沙（☆）

05　三菱大夕張鉄道保存会

〒068-0855　北海道江別市大麻宮町 4-6-502
Tel　011-387-4783

会　長　奥山　道紀
事務局長　今井　一郎（☆）

06　北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644　北海道札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel　011-700-5785　Fax　011-700-5786

代表取締役社長　島田　修
運輸部車両課副課長　大畑　裕昭（☆）

07　NPO 法人　北海道鉄道文化保存会

〒047-0041　北海道小樽市手宮 1-3-6
小樽市総合博物館内
Tel　0134-61-7777

代表理事　飯田　勝幸
専務理事　清水　道代（☆）

08　小坂鉄道保存会

〒017-0202　秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山古館 48-2
小坂町役場観光産業課
Tel　0186-29-3908　Fax　0186-29-3728

代　表　千葉　裕之
総務局長　亀沢　修（☆）

09　栗原市　※新規加入

〒987-2252　宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel　0228-22-1125　Fax　0228-22-0313

市　長　佐藤　勇
企画部企画課　鈴木　敬（☆）

10　真岡線 SL 運行協議会

〒321-4415　栃木県真岡市下籠谷 4412
Te1　0285-82-9151　Fax　0285 82 9152

会　長（真岡市長）　井田　隆一
事務局長　中山　文行
係　長　田中　康寛（☆）

11　けいてつ協会

〒321-1511　栃木県日光市足尾町松原 12-5
せんろ商会足尾事務所
Tel・Fax　0288-93-3403

代　表　　岡本　憲之（☆）

12　鹿島鉄道保存会

〒113-0033　東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel　03-5802-2755　　Fax　03-3818-2700

代　表　　加藤　三千尋（☆）

13　鉾田駅保存会

〒310-0001　茨城県水戸市上河内町 162
Tel・Fax　029-239-6735

理　事　　川津　重夫（☆）

14　碓氷峠鉄道文化むら（一般財団法人　碓氷峠交流記念財団）

〒379-0301　群馬県安中市松井田町横川 407-16
Te1　027-380-4163　　Fax　027-380-4111

代表理事　　本田　英夫
館　長　　飯沼　　勲（☆）

15　デハ 3499 号車保存会

〒331-0802　埼玉県さいたま市北区本郷町 313　蓮見住宅 C-3

代　表　　日暮　成一（☆）

16　日本工業大学

〒345-8501　埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel　0480-33-7545　　Fax　0480-33-7570

学　長　　波多野　純
館　長　　松野　建一
講師・学芸員　　丹治　　明（☆）

17　秩父鉄道株式会社

〒360-0033　埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel　048-523-3337　　Fax　048-526-0551

代表取締役社長　　大谷　隆男
車両課長　　根津　泰生（☆）

18　西武鉄道株式会社

〒359-8520　埼玉県所沢市くすのき台 1-11-1
Te1　042-926-2283　　Fax　042-926-2239

代表取締役社長　　若林　　久
車両部車両課長　　山下　和彦（☆）

19　東日本旅客鉄道株式会社

〒151-8578　東京都渋谷区代々木 2-2
Tel　03-5334-1352

代表取締役社長　　冨田　哲郎
総務部課長　　吉田　　圭
総務部主席　　安彦　　仁（☆）

20　公益財団法人　東日本鉄道文化財団

〒151-8578　東京都渋谷区代々木 2-2-2
JR 東日本本社ビル 11 階
Te1　03-5334-0623　　Fax　03-5334-0624

理事長　　清野　　智
企画部担当部長　　高橋　政弘（☆）

21　一般財団法人　東武博物館

〒131-0032　東京都墨田区東向島 4-28-16
Tel　03-3614-8811　　Fax　03-3614-8814

会　長　　根津　嘉澄
理事・名誉館長　　花上　嘉成
専務理事・館長　　山田　智則
管理課長　　山澤　晴行（☆）

22　公益財団法人　日本ナショナルトラスト

〒102-0083　東京都千代田区麹町 4-5　海事センタービル 4 階
Te1　03-6380-8511　　Fax　03-3237-1190

会　長　　梅崎　　壽
事業課長　　佐藤　美帆（☆）

23　公益財団法人　交通協力会

〒102-0083　千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル 903
Tel　03-6269-9808　　Fax　03-6269-9809

会　長　　菅　　建彦（☆）

24　横浜市電 1156 号修復プロジェクト

〒231-8445　神奈川県横浜市中区太田町 2-23　神奈川新聞文化部
Tel　090-9015-3707

代　表　　齊藤　大起（☆）

25　上松町（赤沢森林鉄道）

〒399-5603　長野県木曽郡上松町上松 159-3
上松町観光情報センター内　上松町役場産業観光課
Tel　0264-52-1133　　Fax　0264-52-4180

町　長　　田上　正男
産業観光課　　織田　浩市（☆）

26　虹の郷（一般財団法人　伊豆市振興公社）

〒410-2416　静岡県伊豆市修善寺 4279-3
Te1　0558-72-7222　　Fax　0558-72-7133

理事長　　鈴木　健範
園内交通課　　秋山　忠久（☆）

27　大井川鐵道株式会社

〒428-8503　静岡県島田市金谷東 2 町目 1112-2
Tel　0547-45-4111　　Fax　0547-45-4115

代表取締役社長　　伊藤　秀生
鉄道部長　　大石　　保（☆）

28　東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）

〒455-0848　愛知県名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
リニア・鉄道館
Tel　050-3772-3910

代表取締役社長　　柘植　康英
副館長　　天野　満宏（☆）

29　博物館明治村（公益財団法人　明治村）

〒484-0000　愛知県犬山市内山 1 番地
Tel　0568-67-0314　　Fax　0568-67-0358

館　長　　中川　　武
所　長　　鷲見　勝彦
主　任　　近藤　雅隆（☆）

30　長浜鉄道スクエア（公益社団法人　長浜観光協会）

〒526-0037　滋賀県長浜市高田町 12-34
Tel　0749-65-6521　　Fax　0749-64-0396

事務局長　　清水　義康（☆）

31　貨物鉄道博物館

〒510-8014　三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道本社内
Tel　059-364-2141　　Fax　059-364-2142

館　長　　清水　　武
理　事　　北川　　潤（☆）

32　西日本旅客鉄道株式会社

〒530-8341　大阪府大阪市北区芝田 2-4-24
Tel　06-6375-2176　　Fax　06-6376-6053

代表取締役社長　　真鍋　精志
広報部（鉄道文化）　藤平　由夏（☆）

33　公益財団法人　交通文化振興財団

〒552-0001　大阪市港区波除 3-11-10
Tel　06-6581-5771　　Fax　06-6584-1309

理事長　　真鍋　精志
専務理事　　兵東　　勇
学芸員　　廣田　琢也（☆）

34　加悦 SL 広場（宮津海陸運輸株式会社）

〒629-2422　京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel　0772-42-3186　　Fax　0772-43-0080

代表取締役社長　　野田　真人
管理課長　　柴田　万喜也（☆）

35　NPO 法人　加悦鐵道保存会

〒612-8485　京都府久我森の宮町 4-144
Tel・Fax　090-3829-4000

理事長　　吉田　博一（☆）

36　ふるさと鉄道保存協会

〒674-0051　兵庫県明石市大久保町大窪 818-3 中井方
Tel・Fax　090-3896-1046

理事長　　中井　健二（☆）

37　片上鉄道保存会

〒733-0813　広島県広島市安芸区船越 2-26-5
Tel・Fax　082-507-2035

代表幹事　　森岡　誠治（☆）

38　若桜駅を元気にする会

〒680-0792　鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場企画財政課
Tel　0858-82-2231　　Fax　0858-82-0134

会　長　　藤原　源市
事務局　　木地谷　諭（☆）

39　NPO 法人　市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022　鳥取県鳥取市西町 1-106
Tel　0857-26-1151　　Fax　0857-22-4103
理事長　　渡辺　一正
事務局長　　太田　　縁（☆）

40　山口線 SL 運行対策協議会

〒753-8501　山口県山口市滝町 1-1
山口県観光振興課内
Tel　083-933-3170　　Fax　083-933-3179

会　長　　阿野　徹生
観光振興課主任　　安光　整子（☆）

41　西条市　　※新規加入

〒793-0030　愛媛県西条市大町 798-1
西条市観光交流センター
Tel　0897-47-3575　　Fax　0897-53-6200

市　長　　青野　　勝
観光交流センター　　佐竹　　浩（☆）

42　馬路村

〒781-6202　高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所　やなせ森林鉄道運営委員会
Tel　0887-43-2211　　Fax　0887-43-2208

村　長　　上治　堂司
魚梁瀬支所長　　伊吹　卓哉（☆）

43　九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566　福岡県福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel　092-474-2541　　Fax　092-474-3898

代表取締役社長　　青柳　俊彦
広報室長　　森　　勝之（☆）

44　北九州線車両保存会

〒813-0003　福岡県福岡市東区香住ヶ丘 7-2-1　香椎花園内レトロ電車パーク
Tel　080-6412-1666

代　表　　手嶋　康人（☆）

賛 助 会 員

01　株式会社ネコ･パブリッシング

〒153-8545　東京都目黒区下目黒 2-28-18 目黒山手通ビル
Te1　03-5745-7813

Rail Magazine 編集長　名取　紀之（☆）

02　株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 4-8-6　日産ビル 3F
Te1　03-3264-1891　　Fax　03-3265-3597

編集長　　宮原　正和（☆）

03　日本鉄道写真作家協会

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 3-4-3　エレガンス飯田橋 504
レイルマンフォトオフィス内
Te1　03-3221-0271　　Fax　03-3221-0272

会　長　　猪井　貴志
事務局長　　中井　精也（☆）

04　北陸重機工業株式会社

〒950-0871　新潟県新潟市山木戸 7-3-69
Te1　025-274-3311　　Fax　025-271-4812

取締役会長　　霜鳥　勝徳
営業課長　　岩橋　正人（☆）

05　株式会社 JTB パブリッシング

〒162-8446　東京都新宿区払方町 25-5
Te1　03-6888-7845　　Fax　03-6888-7876

代表取締役社長　　里見　雅行
編集長　　河合　桃子（☆）

06　有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085　愛知県犬山市西古券 57
Te1　0568-62-9603　　Fax　0568-61-6310

代表取締役　　伊藤　博康（☆）

07　株式会社片上鉄道

〒708-1523　岡山県久米郡美咲町吉ケ原 517
Tel　080-3541-5552　　Fax　082-507-2035

代表取締役　　森岡　直子（☆）

08　株式会社日本旅行

〒105-8606　東京都港区新橋 2-20-15　新橋駅前ビル
Tel　03-3572-8718

代表取締役社長　　丸尾　和明
鉄道プロジェクト　　瀬端　浩之（☆）

09　トレインプラン

〒662-0054　兵庫県西宮市大谷町 3-30

代　表　　太田　裕二（☆）

友の会　会員（五十音順）

赤羽　誠	阿部　豊	井門　義博	岩野　弘一	遠藤　哲夫
加藤　圭哉	倉繁　聡	清水　薫	白川　淳	関田　克孝
橘　秀幸	田中　光一	西尾　恵介	藤井　修	水野　彌彦

以　上

日本鉄道保存協会規約

（名称）

第１条　　この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下［協会］という）とする。

（目的）

第２条　　協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

（会員）

第３条　　協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

（会議）

第４条

１．協会の会議は、総会および幹事会とする。

２．総会は年１回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

（役員団体）

第５条

１．協会に代表幹事団体１団体、幹事団体２団体、会計監事団体２団体を置く。

２．代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。

３．代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。

４．役員団体の任期は２年とし、重任を妨げない。

（顧問）

第６条　　協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は２年とし、重任を妨げない。

（友の会）
第６条の２
１．協会に日本鉄道保存協会友の会（以下［友の会］という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
２．友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

（事務局）
第７条　　協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

（会費）
第８条
１．協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
２．年会費の額は、正会員１２，０００円、賛助会員１２，０００円（１口）、友の会会員３，０００円とする。
３．会計年度は、４月１日から翌年３月３１日までとする。

（規約の改正）
第９条　　この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則　　この規則は、平成３年４月１日から施行する。

総会の運営方法
原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成　３年　４月　１日施行
平成　６年　８月１０日改正
平成１６年　９月１０日改正
平成２０年１０月　２日改正

団体名	遠軽町	〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町115-2 遠軽町丸瀬布総合支所産業課 TEL. 0158-47-2213 FAX. 0158-47-2128

H26.923撮影
雨宮21号・DL機関車並走同時運行

雨宮２１号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輌の1台です。
用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

平成16年度　北海道遺産に選定（NPO法人北海道遺産協議会）
平成20年度　近代化産業遺産に認定（経済産業省）
平成24年度　準鉄道記念物に認定（ＪＲ北海道）

1. 運行日　　平成26年4月26日から10月19日までのＧＷ・夏休み・土・日・祝日
2. 運行時間　１０時から１６時３０分（３０分毎）
3. 運行区間　森林公園いこいの森　２ｋｍ
4. 乗車料金　大人５００円（高校生以上）　小人２５０円（４才以上）

町おこし団体「夢里塾」による活動

「夢里塾」では、「雨宮21号　夢運行」及び「廃線跡ツアー」の企画実施。

＜2014イベント＞

4/26日～27日	【雨宮２１号+井笠客車】と【DL機関車+木曾森林客車】の同時運行
7/20日～21日	
9/14日～15日	
10/12日～13日	
10/19日	
5/10日	雨宮21号夜桜撮影会
8/2日	ミッドナイト・ラン（車輌に電飾を施し、4便運行）・雨宮21号花火撮影会
9/6日	お月見列車運行及び撮影会
9/23日	雨宮21号夢サービス運行（乗車体験・レール渡り等、DLとの並走運行）
10/5日	丸瀬布の森林鉄道廃線跡ツアー

団体名	ふるさと銀河線 りくべつ鉄道	〒　089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線６９番地１ Tel：0156-27-2244　　Fax：0156-27-2791 URL　http://business4.plala.or.jp/rikutetu/ Email　ginga@bz01.plala.or.jp

【営業期間】

４月下旬～１０月下旬

【気動車乗車体験】

CR75（銀河鉄道 999 ラッピング列車）を使用し運行しています。

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料(構内)、中学生以上 500 円・小学生 300 円・小学生以下無料(構外)

【トロッコ体験】

足こぎ式を利用し 400m の周回コースを 1 周

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生以下無料

【気動車運転体験】

CR70・75 型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

（S コース）

女性の方でも簡単に体験できます。

料　　金：2000 円

対 象 者：小学校高学年以上身長 130 ㎝以上

体験運転：約 15 分間（運転・説明）

（銀河コース）

1 週間前完全予約制

※L コース体験者のみ体験可能

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：30000 円

体験時間：約 80 分間（運転）

石井踏切にて乗車体験列車「銀河号」を撮影
平成２６年７月２０日

（L コース）

1 週間前完全予約制

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：20000 円

体験時間：約 80 分間（講習・出区点検・運転）

（銀河コースパックセット）

1 週間前完全予約制

初心者でも銀河コースを運転できるのでおススメ!!

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：50000 円

体験時間：計約 160 分間（講習・出区点検・運転）
L コース 80 分間・銀河コース 80 分間
L コースと銀河コースの体験に、2 食付の宿泊が付き 50000 円。

※銀河コース割引プランもあり

平成 26 年度事業経過

今年度は駅構外乗車体験列車の運行区間が 1.2 ㎞延長されました。往復で 6.4 ㎞体験可能になり利別川沿いを走行したり林の中を走行したりとより北海道の大自然を満喫できるようになりました。

7 月に行われた第 6 回りくべつ鉄道まつりでは昨年度も行った花火列車の運行に加え、車内ではプラネタリウムも上映され大変好評でした。

また、ＣＲ75-1 号機の再塗装が行われており、平成 27 年度の運行からピカピカの車体で運行される予定です。

開業後、初めての３両での運行

＜平成 26 年度イベントスケジュール＞

4 月 26 日(土)　平成 26 年度営業開始
5 月 5 日(月)　GW 特別運行
7 月 20 日(日)　第 6 回りくべつ鉄道まつり
8 月 9 日(土)～15 日(金)　お盆特別営業
9 月 14 日(日)　網走本線開通記念イベント
10 月 12 日(日)　鉄道の日記念運行
10 月 26 日(日)　平成 26 年度営業最終日

NPO法人
ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408
北海道河東郡上士幌町上士幌東3線
TEL:0156-42-3385　FAX:0156-42-3682
会長:那須襄太郎　　事務局長:角田久和

鉄道トロッコを運行します

皆様のご乗車をお待ちしています！

【ひがし大雪高原鉄道】1300m
『鉄路の旅』をお楽しみください

月　日　：　平成26年　9月　7、14、15、21、23、28日
10月　5、11、12、13日（天候不良中止）

時　間　：　午前　9　時半　から　午後　4　時まで

場　所　：　上士幌町鉄道資料館
（上士幌町 ぬかびら源泉郷）
TEL：01564－4－2041

乗車費　：　大人:800円　小学生、中学生:400円

【　鉄道資料館　】

当会が指定管理者制度で管理・運営している鉄道資料館の今年度の入館者は、昨年度より９７名増の６３６７名でした。来年度は、展示物の充実やＰＲ活動の徹底などで、より入館者を増やしていきたいと考えています。

更新された走る士幌線の映像

紅葉のひがし大雪高原鉄道

鉄道資料館・来館者皆様の書込みです

素晴らしい大自然に感動いたしました。
また来年も（別の季節に）来たいと思います。
大自然と芸術のマッチが本当に素敵です。
札幌市・樋川さん

アーチ橋保存、切望いたします
大阪府・今井さん

とても感じよい楽しい場所でした。維持管理のご苦労に感謝します。　東京都・菅原さん

一度訪ねてみたかった士幌線の廃線跡を見ることができて感激しました。横浜市・佐藤さん

士幌線のことが良くわかり勉強になりました。
苫小牧市・斉藤さん

初めて来ました。ＮＨＫの番組で見て、どうしても来たいと思い来ました。素敵な所ですね。
東京都・戸辺さん

35年前、帯広～十勝三股を往復。懐かしく思います。三股は上高地を思わせました。
東京都・池田さん

きれいな鉄橋、先人の努力に感動しました。
東京都・清水さん

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 TEL 01267-2-3997 FAX 01267-2-7880 E-mail kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 TEL 01267-3-1123 FAX 01267-2-6965 E-mail tetsudoumura@s-304.com URL http://www.s-304.com/

三笠鉄道記念館では、北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行（乗車1回300円）
運行日・・・・・・・4月16日から
10月14日までの土・日・祝日
※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、
休館日を除き毎日運行。
土曜・・・・・・・・・12：00始発～16：00発最終
日曜・祝日・・・10：00始発～16：00発最終
※30分毎の発車です。
ただし、12：30発の便はありません。

■SL機関士運転体験
三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も500人を超えました。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■三笠トロッコ鉄道
幌内線の廃線を活用し、平成22年4月から運行を開始したトロッコ鉄道は今年も大勢のお客様に利用されており、人気のある施設です。平成24年8月より三笠鉄道記念館前まで乗り入れ可能となり、往復5.6kmの旅をお楽しみいただけます。
（http://www.karamatsu-train.co.jp/mikasa/mtr.html）

■ イベント開催
毎年のゴールデンウィーク、夏休み、秋のイベントを実施。7月に行われた「線路の灯り」では、線路沿いに並べられたおよそ1000本のろうそくの灯がとても幻想的で、光のイルミネーションの空間をSL、トロッコが走り抜ける様子はとても美しい光景でした。
また、イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場します。今年8月に行われた夏のイベントでは、ぽっぽレンジャーとじゃんけん大会が行われ、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。

■ホームページでのPR
2006年にホームページを開設し、幌内鉄道の歴史や施設紹介等の掲載はもちろんのこと、スタッフのブログやイベント情報など随時更新しています。
SL機関士運転体験の参加申し込みなどもホームページから可能です。
（携帯電話での閲覧に対応していませんが、右のQRコードからHPをご覧いただけます）

三笠鉄道村HP

■施設整備
2012年には、食堂車両、鉄道記念館のエレベータなどの整備を行いました。

団　体　名	三菱大夕張鉄道保存会	連絡先　068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6 三菱大夕張鉄道保存会事務局　011-387-4783

〇三菱大夕張鉄道について

三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ」列車は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。

〇三菱大夕張鉄道保存会の活動

鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(実際に正式譲渡されたのは平成 19 年)。公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などで三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復旧工事が実施された。

その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシューパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」整備計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。

一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道のＳＬや関連資料を保存する、石炭の歴史村・ＳＬ館も閉鎖され、貴重な車両・資料の解体・散逸も懸念される状態にある。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用してホーム補修も進めているが、ＳＬ館保存の車両・資料についても、炭鉱地域独自の鉄道遺産として地域再生に活用出来るよう活動を展開しますので、皆様のご指導・ご支援願います。

主な活動内容

〇保存車両公開　4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)

〇汽車フェスタ　9 月上旬

〇ＳＬ館雪下ろしバスツアー　1 月下旬

〇ＳＬ館公開や廃線跡・産業遺産探訪などを組み合わせたシンポジウム・バスツアーなどの企画、実施

〇ホームページ　http://www.ooyubari-rps.net/

夕張市での連絡先　夕張市清水沢 2 丁目読売新聞夕張中央メディアセンター(高橋勇治)

団 体 名	北海道旅客鉄道株式会社	鉄道事業本部　運輸部　運用課 〒060-8644 北海道札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 TEL 011-700-5785　FAX 011-700-5786

今年もSL函館大沼号・SLニセコ号などを運行！

弊社では、平成 11・12 年に C11 形蒸気機関車 2 両（C11　171、C11　207）を復元し、一年を通じて北海道の大自然や文化・歴史を堪能していただける各種観光・イベント列車として運行しています。

今年度も各方面で SL 運行を計画しており、毎年恒例となっている SL 函館大沼号や SL ニセコ号の運行を行いました。その雄姿を一目見ようと、駅や沿線には地元の方をはじめ鉄道ファンが詰め掛け大きな歓声が上がっていました。

しかしながら、安全体制の立て直しに専念するなどの理由から、車齢も高くレール等の整備に負担がかかる SL については、次年度以降運行を縮小し、釧路地区で運行している SL 冬の湿原号のみの運行とする計画をしております。

平成 26 年度　SL 列車運行計画

〇SL 函館大沼号
　函館本線（函館～森）
　　・4/26～5/6、7/19～21、26～8/3、9、10

〇SL ﾆｾｺ号
　函館本線（札幌～蘭越）
　　・9/20～11/3 の土・日・祝日

〇11 月以降の「SL 函館クリスマスファンタジー号」「SL 冬の湿原号」等の運行を計画しています。

運行が決まりましたら、弊社ホームページ（http://www.jrhokkaido.co.jp/）に掲載しますのでご確認ください。　＊運転日は変更となる場合があります

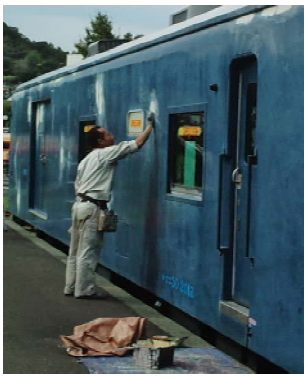
NPO 法人 北海道鉄道文化保存会
―2014―

〒047-0041
北海道小樽市手宮１丁目３番６号
小樽市総合博物館内
NPO 法人 北海道鉄道文化保存会
TEL 0134-61-7777
E-mail：zeromile-hozonkai@tempo.ocn.ne.jp

１）小樽手宮の野外展示車両（　小樽市総合博物館収蔵）の補修工事

毎年続けている野外展示車両の補修工事は、今年度、次の５両の車両について、外装の塗装工事を中心に行われました。

・キハユニ　25-1
・キハ　　27-11
・キロ　　２６-107
・キハ　　５６-23
・マニ　　３０- 2012
（現金輸送車）



２）「レールカーニバル in おたる」実行委員会主催
開催日時／7月 18 日（金）～27 日（日）
場所／旧手宮線の一部（駅前中央線～臨港線）
（昨年から、３年計画の公園化工事進行中。今年度開催は、昨年工事終了部分）

開拓史によって、我国３番目の鉄道として敷設され、1985 年(昭和 60 年)に廃線となった手宮線（明治１３年、札幌まで開通、旧幌内鉄道の一部）を活用し、軌道自転車、およびマウンテンバイクにより、廃線のレールの上を走らせるイベントを当会協力のもとに、実行委員会によって開催されました。

会場には５タイプの車両をラインアップして、運行されました。
市街地の中心部の短い距離での運行でしたが、市民をはじめ、道外、海外からの観光客など、幅広い方々に乗車していただき、初めての体験に歓声をあげて喜んでいただき、好評をえることができました。

来年は北海道に初めて鉄道が開通してから 135 年、そして、鉄道発祥の地、手宮線が廃線になってから、はや３０年になります。
また、現在小樽市総合博物館に収蔵されている「大勝号」（国産蒸気機関車第２号で、現存する最古の蒸気機関車(明治２８年)造-鉄道記念物指定）が、小樽の手宮工場で造られて 120 年になります。
これらの節目の年を迎えるに当たり、手宮線跡地において記念イベントの開催を考えております。

団体名	小坂鉄道保存会	連絡先（小坂町観光産業課観光商工班気付） 〒017-0201 秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地41-1 Tel 0186-29-3908　Fax 0186-29-5481

小坂鉄道レールパーク・グランドオープン（2014年６月１日）

小坂鉄道の産業遺産を未来に！

入園者１万人を達成しました。

昨年、正式に発足し、日本鉄道保存協会へ加盟させていただいた「小坂鉄道保存会」は、平成６年(1994)の旅客列車廃止と同時に、小坂鉄道を守り育てようと自然発生的に生まれたグループを母体としています。

平成８年(1995)、私たちは鉄道の日イベントとして「ディーゼル機関車四重連特別運行」を実施。翌年からは「小坂鉄道・鉄道の日イベント実行委員会」として、平成19年(2007)まで特別運行を継続し、多くのファンを魅了しました。しかし､開業100周年にあたる平成21年(2009)４月、ついに小坂鉄道は廃止されてしまいました。

▲小坂鉄道ﾚｰﾙﾊﾟｰｸ・ｸﾞﾗﾝﾄﾞｵｰﾌﾟﾝ

▲タブレット！毛馬内よんかく、よし！
（なりきり体験運転より）

小坂町は、いち早く鉄道の跡地や車両・設備を産業遺産として活用する構想を打ち出しました。実行委員メンバーも「小坂鉄道保存会準備室」を組織し、全面的に町に協力して開設準備を進め、新たなメンバーを加えて発足した「小坂鉄道保存会」は、10月１日現在で一般会員17名、サポート会員27名と１匹、顧問７名の大所帯となりました。

今年６月、待望の小坂鉄道レールパークがグランドオープンしました。私たちは、小坂鉄道の産業遺産を未来に引き継ぐため、保存活動とともに体験事業の担い手として活動してまいります。

▲動態保存車両勢揃い

小坂駅構内まるごとミュージアム

小坂鉄道レールパーク

営業時間　９：００～１７：００
定 休 日　毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）
入 園 料　大人500円、小人250円、幼児無料
（レールバイク、観光トロッコの料金は別途）
※体験運転は予約制です。
詳細はホームページ http://kosaka-rp.com
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町古川20-9
TEL 0186-25-8890　FAX 0186-29-2002

団体名

くりはら田園鉄道

昭和の情緒と豊かな田園風景を楽しめる、乗車会を開催

宮城県の北部に位置する栗原市で大正時代から運行していたのが「くりはら田園鉄道」です。旅客・貨物輸送を行った単線ローカル線で、「くりでん」の愛称で親しまれていましたが、2007年に惜しまれながら廃線となりました。
現在は、その歴史を後世に伝えていこうという趣旨から、2010年から「くりでん（KD95）乗車会」を、2014年4月からは、レール上を自転車感覚で走行できる「レールバイク乗車会」を開催しています。

1 くりでん(KD95)乗車会

2014年来場者数実績（9月末日現在）
約1,200人

運行当時の車輌そのままに。くりでんの記憶が蘇る乗車会。

現在、会場の若柳駅舎は、くりでんの歴史の伝承と発信の拠点として、開業当時の姿（大正期）の姿に復元されています。昭和を感じる佇まいの駅舎内で当時の硬券切符を購入し、改札を抜け、片道約500メートルの距離をKD95（ディーゼル気動車）で、当時の雰囲気さながらに往復運行します。

- イベント期間：6月～11月の第2日曜日
- 運行区間：片道500m
- 乗車料金：小学生以上1人200円（※運行協力金）

KD95

2 レールバイク乗車会

2014年来場者数実績（9月末日現在）
約4,400人

特別企画開催

レール上を直接走る感覚が新鮮！気動車とはひと味違った体験が可能。

レールバイクは、通常の自転車と同様にペダルを漕いで、レールの上を走行することができる乗り物です。レールの継ぎ目の「ガタンゴトン」という音を直に体感することができます。そのためお客様から「レールの上を自転車感覚で走れる新鮮な体験！」、「子どもたちが電車になった気分でとても喜んでいた！」と好評いただいているイベントです。

- イベント期間：4月～11月の毎週日曜日（※不定休あり）
- 運行区間：片道150m、900mの2種類（※日によって変動）
- 乗車料金：無料

レールバイク

特別企画開催

■ねじりほんにょと記念撮影
栗原市マスコットキャラクター「ねじりほんにょ」との記念撮影。

■ガチンコじゃんけん対決
走行区間内にある5ヶ所の踏切で、係員とじゃんけん対決。
勝利数に応じて記念品をプレゼント。

■ガチンコ水鉄砲対決
走行区間内にある5ヶ所の踏切で、係員と水鉄砲対決。

■くりでんオリジナル缶バッチ作成体験
くりでんロゴマークのスタンプなどを使って、缶バッチを作製。

■光源クリハライザーショー
栗原市のご当地ヒーロー「光源クリハライザー」のショーを開催。

■DB10（ディーゼル気動車）特別運行
通常、構内展示のみのDB10（ディーゼル機関車）を特別運行。

■栗原プチ検定
走行区間内にある5ヶ所の踏切で、「栗原市」にちなんだ問題を出題。
参加者には記念品をプレゼント。

■プラレールコーナー
駅車内にプラレールを使って自由に遊べるコーナーを設置。　など

DB10(ディーゼル気動車)特別運行

光源クリハライザーショー

ガチンコ水鉄砲対決

プラレールコーナー

お問い合せ先
栗原市企画部企画課
TEL：0228-22-1125　E-mail：kikaku@kuriharacity.jp
HP：http://www.kuriharacity.jp/

イベント会場
旧くりはら田園鉄道 若柳駅
住所：宮城県栗原市若柳字川北塚ノ根17-24

団体名	真岡線ＳＬ運行協議会	〒３２１－４４１５ 栃木県真岡市下籠谷４４１２番地 TEL 0285(82)9151　FAX 0285(82)9152

▲平成２６年１月に実施した、
Ｃ１１とＣ１２による単機重連
（真岡駅）

「ＳＬもおか」２０１４冬・運行日程

【運行日】　１１月　１日・２日・３日・８日・９日・１５日
１６日・２２日・２３日・２４日・２９日・３０日
１２月　６日・７日・１３日・１４日・２０日・２１日
２３日
１月　３日・４日・１０日・１１日・１２日・１７日
１８日・２４日・２５日・３１日

【運行区間】　真岡鐵道　下館駅～茂木駅（４１.９キロ）

【運行時間】　下り　下館駅１０：３５発～茂木駅１２：０６着
上り　茂木駅１４：２６発～下館駅１５：５６着

【運行車両】　ＳＬ　Ｃ１２形６６号　　Ｃ１１形３２５号
ＰＣ　オハ２両、オハフ１両
ＤＬ　ＤＥ１０　１５３５　１両

〔近況報告〕

◆５月中旬から７月中旬までの運休期間を利用したＳＬイベントの開催

今年度は、Ｃ１２と客車の検査がありましたので、上記の期間ＳＬが運休しておりました。このため、Ｃ１１を使用したイベントと致しまして、自作ヘッドマークと一緒に記念撮影が行えるイベントを開催致しました。

参加申込受付開始から短時間で定員になる盛況ぶりで、参加者の皆様には大変喜んで頂けました。

また、見学客からも次回開催時の申込要望が大変多くございました。

▲世界に１つだけのオリジナルヘッドマークと記念撮影
（自作ヘッドマーク撮影会）

◆７月、８月にて夏休みＳＬイベントを実施

今年も子どもたちの夏休み期間にあわせて、夏休みＳＬイベント「ＳＬ教室」・「ＳＬガイド体験」等を開催致しました。

大変暑い中、多くの参加者にお申し込み頂き、ＳＬもおかの旅を楽しんで頂けました。

▲体験参加者の記念撮影
（ＳＬガイド体験）

▲家族の思い出になる写真を
（ＳＬガイド体験）

▲ヘルメットをかぶったボランティアスタッフから説明を受ける参加者（ＳＬ教室）

◆平成２６年１１月２３日、下館駅にて 鉄道写真家 中井精也 氏とのコラボイベント開催予定！

今年度、ＳＬの始発駅であります、茨城県筑西市の「下館駅」にて１１月２３日に開催されます、駅なか駅まえフェスティバルに併せてイベントを開催致します。

さらに、鉄道写真家の中井精也氏とのコラボイベントも予定されており、大変期待されているイベントになっております。

けいてつ協会	NPO法人足尾歴史館 〒321-1523　栃木県日光市足尾町松原2825 TEL：0288-93-0189(毎週月曜定休10～16時) http://ashiorekishikan.com/

けいてつ協会の本年度の活動

行政からの資金援助などまったくない、民間ボランティア団体が運営している、栃木県日光市にありますNPO法人足尾歴史館に協力しながら、鉄道保存活動をしております。活動場所は、二カ所あり、足尾歴史館野外展示場「足尾ガソリン軌道歴史館線」での復元されたガソリンカー運行のボランティアと、全国各地から集めてきましたトロッコ類の保存・修理作業。と、わたらせ渓谷鐵道足尾駅構内に保存してあります足尾歴史館所有の鉄道車両たちの整備・公開です。

本年度は、足尾歴史館野外展示場にて当会所有の、岩手県花巻の老舗建設会社㈱伊藤組より寄贈頂いた4両のガソリン機関車のうち、米川鉄工所製の3t機を修復しました。フリクションドライブ機構という珍しい変速機の小型機関車です。また、足尾駅では、本年度から年3回の車両公開日を設け、5月3日・8月2日・11月1日にて一般公開をし、開催日はアント工業製の超小型貨車移動機の実演走行や、日立製作所及び協三工業製の入換用機関車の展示・走行。それにキハ30形気動車キハ35の車内公開などをおこないました。

足尾歴史館のガソリンカーは、
毎年4～11月末日までの第一土・日曜日運転です。

修復中の米川鉄工所製3tガソリン機関車

3tガソリン機関車のフリクションドライブ

足尾駅での、アント工業製貨車移動機の実演走行

日立製作所製の15t貨車入換用
ディーゼル機関車のデモンストレーション走行

鹿島鉄道保存会
＜鹿島鉄道記念館＞

〒113-0033
東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル11階 （株）バレア内
TEL 03-5802-2755　FAX 03-3818-2700
E-mail　info@kashitetsu.com
URL　https://www.facebook.com/kashitetsu

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線（石岡～鉾田間27．2km）の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館（普段は非公開）の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】
キハ714（昭和28年新潟鉄工所　元夕張鉄道キハ251）
KR-501（平成元年新潟鉄工所　鹿島鉄道自社発注車）
キハ431（昭和32年東急車輌　元加越能鉄道キハ125）

【保存建物】
玉里駅上りホーム待合室
駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵

キハ714とKR-501

鉾田駅の駅名票、制御盤、応援団看板

キハ431車内

鹿島鉄道車両の写真

行き先板、運賃表ほか

【一般公開】
平成21年3月の記念館完成後、鉄道ファン向けの一般公開（事前予約制）、見学団体受け入れや自治体とのイベント共催による特別公開を数回実施していますが、平成24年11月以降はスタッフ多忙などの理由で実施していません。
今後の公開日程は現在のところ未定ですが、鉄道ファン向けに車両清掃ボランティアを兼ねた公開、自治体と連携して地元住民を対象とした一般公開を本年度内に実施したいと考えております。
公開が決定した場合は、当会Facebookページでご案内いたします。

団体名　**鉾田駅保存会**

〒311－1528
茨城県鉾田市当間220ほっとパーク鉾田
TEL029－239－6735
e-mail：hokota-station@rail.nifty.com
URL：http://homepage3.nifty.com/hokota-station/

2007年3月31日に廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車、キハ601とKR－505の保存活動を、2両が保存されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』で行っています。
2012・13年度は、車両の補修・塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しました。
2014年度も，車両の補修・塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しています。

当会が保存活動を行っている、鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR－505は2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。
鉾田駅保存会は、賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動を実施していました。
その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において2両のを保存することになり、当会は気動車2両を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2008年12月24日に『ほっとパーク鉾田』に移送されました。その後当会は引き続き2両の気動車の保存活動を継続しています。

東日本大震災被害の復旧作業

鉾田花火大会特別公開

月例の定期公開では、保存活動の周知と、鹿島鉄道を知らない年少世代への記憶の継承を目的に、下記の様な企画を行っています。

（1） KR－505車内でのプラレール遊び
（2） キハ601車内での鉄道模型展示・運転（N・HOゲージ　鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等）
（3） 5インチ乗用鉄道の体験乗車（16m×10mオーバル）
（4） 鉾田駅保存会製作のグッズの販売
（5） 鹿島鉄道関連書籍の展示
（6） 記念入場券の無料配布
（7） 保存活動内容の展示

また、鉾田市主催の『鉾田うまかっぺフェスタ』や、『ほこたマラソン』『鉾田花火大会』『石岡市商工祭』などの地域行事に参加　・協力し、広報活動を行っています。

車両が保存されている鉾田市当間では、東日本大震災と、その約30分後に至近の鹿島灘で発生した余震により、二度の震度6強の揺れに襲われ、地盤の液状化が発生し展示線のレールは波打ち、展示車両は傾斜し、床下機器が接地しました。キハ601の冷却機の一部は車体とせり上がったレールの間に挟まれ破損し、冷却油が漏洩しました。また、冷却油配管が変速機用と機関用の双方とも破損・変形しました。現在は破損した冷却機の修理・入手方法や予算について検討中です。KR－505は、機関不調のため点検を行ない、燃料配管の不具合と、一部部品の経年劣化が判明し、機関の再起動と、移動展示の再開を目指し、復旧作業中です。

今年度の定期公開予定日は、10／26（日）・11／23（日）・★12／23（祝）・1／25（日）・3／29（日）です。
イベント参加予定日は、鉾田うまかっぺフェスタ：10／12（日）・13（月）、石岡商工祭11／2（日）　他です。
臨時公開予定日は、鉾田マラソン：12／21（土）、廃線7周年公開：3／31（火）　です。

一般財団法人　碓氷峠交流記念財団
碓氷峠鉄道文化むら

〒379－0301
群馬県安中市松井田町横川407-16
TEL 027-380-4163　FAX 027-380-4111
e-mail　bunkamura@usuitouge.com
URL　http://www.usuitouge.com/bunkamura/

碓氷峠鉄道文化むらは群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3．5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を信越本線経由で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11．2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、群馬県・旧松井田町・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンしました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早17年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2．6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月の毎日、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の体験運転も約2，388人が受講されています。平成25年度は126名の受講者（男性122名・女性4名）があり、のべ2，847回の体験を楽しまれました。また、1人で通算706回の運転者も出現しております。26年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

公益法人制度改革により、当財団は一般財団法人へ移行いたしました。

運転体験で使用しているEF63形電気機関車

トロッコ列車シェルパ君

団体名	デハ3499号車保存会 http://www.mc-tc.net/3499_report/	■事務局 331-0802 埼玉県さいたま市北区本郷町313 C-3 ■車輌設置場所 371-0102 群馬県前橋市富士見町皆沢315-16 ■メールアドレス moha565_deha3499@mc-tc.net

■デハ3499について

デハ3499は、東京急行電鉄(東急)の前身目黒蒲田電鉄・東京横浜電鉄が共同発注したモハ510形の最終番号モハ565として、1936年(昭和11年)に神戸の川崎車両製造で製造されました。モハ510形は50両という、私鉄電車としては単一形式の戦前最多量産記録を持っています。鉄道敷設と宅地開発を一体的に進める事業を生涯かけて邁進した東急総帥五島慶太の、事業に賭ける意気込みの一端を垣間見るものだと思います。

大東急併合に伴い、デハ3450形3499となり、戦後の更新修繕で「見た目の」木部が無くなり、窓が100㎜拡大されるなど、印象はかなり変わりましたが、両運転台構造はそのまま保持され、検査代車として目蒲・池上線等で旅客営業したり、こどもの国線休園日単行運転、貨物列車や回送列車の牽引等、縁の下の力持ちともいうべき幅広い活躍を見せた車両でもあります。

現在使用されているTOQ-にとデヤ7500系事業用電車はデハ3499の直系の「孫」ともいうべきものですし、奇しくも現設置場所から程遠からぬ、上毛電気鉄道大胡列車区にて動態保存されているデキ3021号電気機関車は、デハ3499にとって営業・事業用貨物列車や回送列車等の牽引や入換等、互いに長きに渡り共に東急線の裏方を支えた、僚友同士ともいうべき存在です。

1989年の3000系列営業運転引退後、デハ3499は架線検測車デヤ3001と共に牽引・入換用等の事業用に専念しますが、田園都市線ATC化に伴い、1992年の「東急70周年記念電車」での(旧)目蒲線におけるイベント運行を事実上のさよなら運転として、翌93年除籍、東急車輛製造に譲渡され、金沢八景-京急神武寺間における新車搬出等の牽引車として活躍しました。2002年に同じく東急から7000系譲渡に伴い引退、その後は工場敷地の一角に保管されていました。

■保存の経緯

2010年3月、デハ3499の解体について弊会代表者が偶然耳にする機会があり、急遽(旧)東急車輛製造様に対し譲渡の打診を行い、その根拠として本車を受け入れ、保存するための手筈を整えることとなりました。情報が入った段階で解体まで1週間しかなく、一時は絶望的かと思われましたが、幸い、土地及び輸送費についても、かなり無理な負担があったとはいえ目途が立ち、解体予定日前日に解体中止及び正式な譲渡申し入れ、同6月に私たち自身の手で軌道敷設、同8月に関東平野を縦断し、3日をかけて群馬県赤城南麓の現所在地へと搬入しました。

■保存の意義と方針

保存に至った原動力として、「愛好者」としての趣味的観点の一方で、デハ3450形という電車が戦前の目蒲・東横線、戦後の田園都市線という、電車網を骨格とした東京郊外発展の、伸るか反るかの黎明期を支えた存在であることは疑いようのない事実であり、「開発」の2文字を背負ったこの電車を、社会的・技術的・文化的なあらゆる面を通じ後世に伝承することを保存の最大意義と考えています。すなわち、私共はデハ3499を、欧米で一般的に言われる「ミュージアムカー」と位置付けています。

また、電車は誰の財産的所有であろうと社会的公器であり、私共は電車を社会からお預かりしていると考えますので、可能な限りの公開を行いたいものの、通常無人ゆえ盗難や破損に対する不安は払拭できないものがあります。幸い、設置後3年を経て、故意の破損や盗難等は全く発生していません。

レストア活動をするにあたり、目標設定年代を1980年代半ばごろ、営業運転に使われた最末期とし、ドアステッカーや吊り広告等も含め、営業運転当時の世情世相等まで回顧できるようにする一方、高圧系・走り装置系以外の低圧電源系や空気系機器(灯具類、ドア、パンタ、ブレーキ、警笛など)はできる限り復活させるべく、整備を進めています。昨今、1980年代・東急沿線というテーマで吊り広告の収集を重点的に行っています。修復後の車内には、これらが重要な役割を果たすものと期待しています。

■現車の状態と修繕活動

戦前製の所謂通し台枠構造の電車ですので、根本的には大変頑丈な構造ですが、海に近い箇所にあったことから外板の塩害が著しく、裾部を新品の鋼板に交換する切り継ぎ溶接作業を要し、地道かつ技術力を要する作業が続いています。2014年10月現在、7割程度の裾切り継ぎが終わり、順次パテ付け及び研磨作業を推進しつつあります。また、屋根も穴あきなど劣化著しく、ほぼ専従状態のメンバー重点的補修を行い、雨漏り等は収束を見ています。

一方、元空気ダメに空気を送り込み、まずは警笛タイフォン、次いでドアエンジンやブレーキシリンダ等の動作試験なども逐次実施しています。

来春にはスタートから早5年。そろそろ修理に決着を付け、活用段階にシフトする時期と思います。

■活動日とアクセス

原則第三土曜日を公開活動日とし、その他随時実施しています。

前橋駅前6番バス乗り場より

赤城山ビジターセンター行　龍の口下車徒歩10分

赤城青少年交流の家行(夏季のみ)　総合グランド下車すぐ

■Facebookグループ

https://www.facebook.com/groups/220335524843931/

団体名	日本工業大学 工業技術博物館	345-8501 埼玉県 南埼玉郡 宮代町 学園台 ４－１ Tel. 0480-34-4111(大学代表) Fax. 0480-33-7570(博物館直通)

製造されて117年、疾走する2109号蒸気機関車の勇姿

2014年の運転について

1993年９月に大井川鉄道より本学に寄贈され、年に2度の洗缶作業を行い、2007年度にボイラー煙管172本とステー管16本を交換して、動態保存を実施している。2012年度の右側シリンダーの補修作業後の有火運転も無事に再開している。
2109号蒸気機関車を、原則として8月と12月を除く毎月第3土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。写真にキャンパス内で運転中の様子を示す。
このほかにも学園祭等のイベント時にも有火運転を行っており、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。
また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

平成26年度の有火運転実績（平成26年9月30日現在）

平成26年度	2109号蒸気機関車	有火運転実施日
5月17日(土)	定期運転	（13:00～15:00）
6月 8日(土)	定期運転	（13::00～15:00）
7月 9日(水)	臨　時	（12::30～15:00）

平成26年度の今後の有火運転予定

平成26年度	2109号蒸気機関車	有火運転予定日
10月18日(土)	定期運転	（13::00～15:00）
11月 1日(土)	大学祭・ホームカミングデー	（12:00～15:00）
11月 2日(日)	大学祭	(13:00～15:00)
11月14日(金)	臨　時	（13:30～15:00）

団体名	西武鉄道株式会社 池袋線車両所 横瀬車両基地	連絡先 〒357-0063 埼玉県飯能市飯能９３７－１ 池袋線車両所　武蔵丘車両基地

◇　車両基地の概要

1970 年（昭和 45 年）1 月、西武秩父線開業を受け電気機関車・貨車専用基地として埼玉県横瀬町に開設。その後所沢検車区の支区となったが、1989 年（平成元年）9 月に所沢車両管理所の廃止により、業務を統合して横瀬車両管理所となった。

開設当初は武甲山から採掘される石灰石を原料とするセメント輸送が盛んであったが、トラック輸送への転換でセメント輸送は 1996 年（平成 8 年）3 月末に廃止となり、バラスト輸送のための E31 形電気機関車と貨車を残すのみとなった。2008 年（平成 20 年）7 月に機関車によるバラスト輸送が廃止となり、機関車は甲種車両輸送で活躍するだけとなった。2010 年（平成 22 年）３月に E31 形電気機関車も廃車となり、甲種車両輸送は全車電動車に改造した 101 系 4 両編成が代わりに行うこととなり、西武鉄道における電気機関車の歴史も幕を閉じた。E31 形電気機関車はその後３両が大井川鉄道へ譲渡となり、第二の活躍の場を得ることができた。2014 年(平成 26 年)2 月の大雪により建屋の屋根が一部崩落するとともに保存車両にも損害が発生した。建屋が危険な状態となったため基礎部分を残し解体作業が行われ、10 月に作業が終了している。保存車両の今後の扱いについては現在検討中である。

◇　保存車両

横瀬車両基地には電気機関車 6 両(E43・E52・E61・E71・E31・E854)、特急ﾚｯﾄﾞｱﾛｰを含む電車 3 両(ｸﾓﾊ 355・ｸﾊ 5503・ｸﾊ 1224)および 5000 系前頭部(ｸﾊ 5504)が静態保存されている。また、旧保谷車両基地には蒸気機関車(5 号)と電気機関車(E11)が静態保存されており、2012 年には 100 年アニバーサリーイベントとして修復されて公開された。以下、横瀬車両基地に保存されている車両を紹介する。

＜5000 系　ｸﾊ 5503＞

1969 年(昭和 44 年)10 月の西武秩父線開業に合わせ新造された特急車両。4 両編成で新製され最終的には前編成 6 両編成となった。最後に廃車された 5503 編成の両先頭車 2 両が静態保存となった。

＜ｸﾓﾊ 351 形　ｸﾓﾊ 355＞

1954 年（昭和 29 年）から 1956 年（昭和 31 年）にかけて新製された 17m 級の小型車体車両。1990 年（平成 2 年）6 月廃車となった。

＜101 系　ｸﾊ 1224＞

1969 年（昭和 44 年）の西武秩父線開業に合わせて山岳路線を走行するための高出力・高ブレーキ性能の車両として登場。登場時は「AS カー(All round Service Car)」とも称された。1976 年（昭和 51 年）までに 4 両編成 50 本（200 両）と 6 両編成 13 本（78 両）の計 278 両が新製された。

＜E31 形　E31＞

1986 年(昭和 61 年)から翌 1987 年(昭和 62 年)にかけて西武鉄道所沢車両工場にて 4 両が製造された小型直流用電気機関車外観は西武鉄道の在来大型機関車である E851 型のデザインラインを継承している。

＜E61 形 E61＞

1923 年（大正 12 年）鉄道省がアメリカのゼネラル・エレクトリック社より輸入した。車体は箱型で、その前後にデッキを有しており屋根上には 2 基のパンタグラフを設けており、同時期に輸入されたイギリス製に比べ無骨さは影を潜めている。

＜E851 形 E854＞

1969 年（昭和 44 年）の西武秩父線開通に際して、秩父方面から正丸峠を越えてセメント輸送列車が運行されることとなり、民鉄最大級の機関車として三菱重工業（車体）及び三菱電機（電気機器）において 4 両が製造された。

＜E71 形 E71＞

1925 年（大正 14 年）アメリカのウェスチングハウス・エレクトリック社（車体・電気品）及びボールドウィン社（機械類）で製造された。現在は国鉄時代の塗装に復元、ナンバーも ED10 に戻されている。

＜E51 形 E52＞

1923 年（大正 12 年）スイスのブラウンボベリィ社及びロコモティブ・アンド・マシンワークスで共同製造された。車体はスイスの機関車らしく全体的に角の取れたデザインとなっていて、パンタグラフ集電舟が 1 本しかないのが特徴である。

＜E41 形 E43＞

1926 年（大正 15 年）から 1929 年（昭和 4 年）にかけてイギリスのイングリッシュ・エレクトリック社にて製造された。前後にデッキを備えた箱型車体で、正面窓に対して乗務員室窓が向って左側にオフセットされた配置が独特である。デッキは台車が車体前後へ張り出したその上に設置されている。

団　体　名	秩父鉄道株式会社	〒360－0033 埼玉県熊谷市曙町１丁目１番地 ℡048－523－3337　fax048－526－0551

秩父鉄道では、秩父路の素朴で美しい自然と貴重な大地の遺産、史跡や文化遺産を訪れるジオツーリズムを多くの皆さまに楽しんでいただくため、秩父ジオパークトレインの運転を開始いたします。

この事業は、秩父まるごとジオパーク推進協議会、埼玉県立自然の博物館、秩父まるごと博物館の協力のもと、県内の鉄道の活性化を目的とした埼玉県の「地域鉄道元気アップ共同事業」の一環として実施いたします。

「秩父ジオパークトレイン」は空・陸・海をテーマに、かつて秩父地方に生息していた生物のデザインを車体にフルラッピングしました。車内も天井や内壁にラッピングしています。

<u>定期運行について</u>

9 月 27 日（土）から 11 月 16 日（日）までの土曜・休日は運転時刻を固定して運転いたします。

※10 月 25 日（土）、26 日（日）はイベントのため除きます。

※都合により、急きょ変更する場合があります。

団体名　公益財団法人東日本鉄道文化財団

館名　鉄道博物館（THE　RAILWAY　MUSEUM）

【所在地】〒330-0852　埼玉県さいたま市大宮区大成町 3-47

【TEL】048-651-0088　【FAX】048-651-0570　【URL】http://www.railway-museum.jp/

【沿革】2007(平成 19)年 10 月 14 日開館

【お知らせ】

米国ボルティモア＆オハイオ鉄道博物館と姉妹館提携を締結

鉄道博物館（さいたま市）は、米国のボルチモア＆オハイオ鉄道博物館（Baltimore & Ohio Railroad Museum、メリーランド州ボルティモア市）と、2014 年 9 月 5 日に、同館において姉妹提携の調印式を行いました。今後は両館の間に協力関係を築くことが、双方の来館者をはじめ日米両国にとって有意義な文化プログラムを展開するための基盤となること、また、国際協力とお互いの国の鉄道に対する相互理解に貢献すると考え、姉妹館として交流してまいります。

【ボルティモア＆オハイオ鉄道博物館】

【鉄道博物館】

【活動状況等】

第 6 回コレクション展「鉄道×絵画」を実施

(開催期間：2014 年 3 月 15 日～6 月 2 日)

鉄道をモチーフとした絵画の持つ魅力を、美術、歴史、技術などの側面から多面的に紹介しました。日本のゴッホとも評される長谷川利行の「赤い機罐車庫」を今回 8 年ぶりに展示したほか、当館の開館以来初公開となる作品も多数展示しました。

▲長谷川利行「赤い機罐車庫」

夏季イベント展「新幹線 LOVE」を実施

(開催期間：2014 年 8 月 9 日～10 月 20 日)

「夢の超特急」と呼ばれた新幹線は、誕生から 50 年を経過しました。このイベント展では、新幹線乗務員の制服や、写真、大型精密模型等を展示し、お子様から大人まで幅広くお楽しみいただきました。

▲「新幹線 LOVE」会場風景

一般財団法人　東武博物館	〒132-0032　東京都墨田区東向島 4-28-16 TEL　03-3614-8811　　FAX　03-3614-8814 http://www.tobu.co.jp/museum/

２０１４年度　活動内容

大正３年５月に東上鉄道として開業した東武東上線が、今年で開業１００周年を迎えたことを記念して、様々なイベントを開催いたしました。平成２６年５月１日に、当館が動態保存をしている８０００系８１１１号が、かつて使われていたセイジクリームに塗り替えられた８１１１１号と連結し、池袋駅から森林公園駅間を走行しました。

また、平成２６年７月１日（火）から９月２８日（土）まで企画展「東上線開業１００周年記念展」を開催いたしました。東上鉄道営業許可書や東上鉄道東武鉄道合併認可書など、貴重な資料を展示したほか、歴代の車両や東上沿線のエピソードなどを写真やパネルでご紹介し、たくさんのお客様にお楽しみいただきました。

東上開業１００周年記念のヘッドマークを付けた８０００系８１１１号編成と８１１１１号編成　平成２６年５月１日

施設概要　さまざまなアプローチから鉄道の魅力を堪能できる博物館。１２両の実物車両を保存展示しているほか、実際に作動させて楽しむ展示も多数あります。迫力のフルハイビジョン映像で運転体験のできるシミュレータは３台。運転コースは日替わりで設定しています。また、ジオラマ上で模型電車を走らせることができる実物の運転席も４台あります。さらに、汽笛を鳴らしながら車輪を回転させるＳＬショー、約１５０両の模型電車が関東平野をイメージした巨大ジオラマを走り抜けるパノラマショーも必見です。

開館時間：１０：００～１６：３０（入館は１６：００まで）

休 館 日：毎週月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）

　　年末年始（１２／２９～１／３）

入 館 料：おとな２００円／こども（４歳から中学生まで）１００円

交通案内：東京スカイツリーライン東向島駅下車（駅となり）

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-6380-8511　FAX 03-3237-1190

トラストトレインは、日本で最初に市民の募金により取得し、保存・活用している歴史的車両です。1987 年 7 月 25 日から大井川鐵道株式会社の協力を得て運転を開始し、多くの方々からの寄付金やボランティア活動に支えられ 20 年以上走り続けてきました。JNT では、今後もこれらの近代化遺産ともいうべき鉄道にかかわる文化遺産を末永く後世へ継承していくため、活動を続けてまいります。

〇2014 年「トラストトレイン」運転日
運転日ボランティア　4/19、6/15、 7/5、8/23、10/4　　計 5 回　　※8 月 23 日は「親子ボランティア」
〔区間〕　　大井川鐵道　新金谷 ― 千頭間（37.2km）
〔保有車両の編成〕スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車、C12 形タンク式蒸気機関車
※C12 は現在休車中
〔運行時間〕　新金谷駅 11:45 発→千頭駅 13:06 着　　千頭駅 14:53 発→新金谷駅 16:09 着

【近況報告】
〇「親子ボランティア」の開催
次世代を担う子どもたちが興味を持ってトラストトレインと触れ合う機会となることを目指して、毎年夏、親子ボランティアを実施しています。本年は夏休み最後の日曜日となった 8 月 23 日に実施しました。
あいにくの雨の中、総勢 22 名もの参加がありました。乗車前には客車の清掃を行い、その後 SL 磨きに着手。SL を磨いてはいけない箇所を説明し、足元が悪いので十分注意する旨を伝え作業開始。ボランティアの皆さんは一般見学者とは別に、特別に柵の中で作業することができて少し優越感。車輌区の特性の石鹸で汚れた手を洗い、会議室へ一旦戻り、車掌体験の準備。車内アナウンスに参加する子供たちのリハーサルをし、SL が出発。車内でクイズ大会をしたところ 7 問中全問正解のお子さんもいて、大人顔負け正真正銘の「鉄ちゃん」。車掌体験は、「家山」「下泉」「千頭」それぞれの駅で子供たちが車内アナウンスにチャレンジ。緊張した面持ちで、でも力強く立派にアナウンスをしてくれました。当初予定していた千頭駅での転車台回しは諸事情でできませんでしたが、最後に修了証と記念品をお渡しして無事終了。
※ボランティア募集※
トラストトレインンでは、8 月の親子ボランティアも含め、年に 5 回ボランティアによる運行を行っています。運行日にはパンフレット配りや客車内の清掃にご協力いただきます。今年最後の運行日は 10 月 4 日（土）です。ぜひご参加ください。
※来年の運行日は決まり次第お知らせいたします。

団体名　公益財団法人交通協力会

100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号　電話 03 6269 9808 FAX 03 6269 9809

沿革

当会の源流は大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。それまで民間企業に依存していた鉄道関係の新聞、雑誌、書籍の刊行が紙の統制のため困難となったという事情が背景にありました。同年 4 月、現在の交通新聞の前身である陸輸新報の刊行が始まり、各種の雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、陸輸新報も「交通新聞」と改称し、「交通年鑑」と「交通技術」誌を発刊し、1949（昭和 24)年、公共企業体日本国有鉄道の発足とともに、「国有鉄道」、「国鉄線」の両誌を発刊しました。これらの雑誌はいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄分割・民営化まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した「鉄道辞典」や百周年記念に国鉄が編纂した「日本国有鉄道百年史も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞雑誌の刊行と書籍出版の事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通年鑑や旧国鉄の機関誌類を電子復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に「交通年鑑」、「日本国有鉄道監査報告書」、「国有鉄道」、「国鉄線」、「交通技術」、「鉄道辞典」を全冊収蔵し、今後「日本国有鉄道百年史」などを収蔵する予定です。当会ホームページ http://transport.or.jp の電子図書館にアクセスして ID とパスワードを入手すると、無料で閲覧できます。

鉄道史資料調査センター

わが国の鉄道は 8 年後に創業 150 年を迎えます。過去に創業 50 年を記念して鉄道省が「日本鉄道史」上中下三篇、100 年を記念して日本国有鉄道が「日本国有鉄道百年史」（本冊 14 巻のほか、通史、年表、索引、写真史など全 19 巻）を編纂・刊行しました。創業 150 年は、新しい歴史編纂の好機になりますが、国鉄改革から 27 年を経た今日、とりわけ旧国鉄時代の資料の発掘、整理、保存は大きな課題となっています。当会は鉄道史資料調査センターを設置し、専任の研究者によって、国の内外に存在する資料・文献などの所在確認と目録作成、鉄道 OB など個人蔵資料の発掘と収集・保存、旧国鉄幹部等のオーラルヒストリー作成、などの調査・研究活動を行っています。

新幹線 50 年史の刊行（12 月刊行予定）

本年 10 月、東海道新幹線開業 50 年を迎えたことを記念して、国土交通省、鉄道・運輸機構、鉄道総研、JR 各社、日本交通協会、日本鉄道技術協会などの全面協力を得て、「新幹線 50 年史」を刊行します。各組織の現役の専門家のほか、新幹線に詳しい旧国鉄 OB が執筆し、東海道のほか山陽、東北、上越、北陸（長野）、九州の各新幹線、山形、秋田の両新幹線、近く開業予定の北陸（金沢）、北海道（函館）各新幹線を網羅し、車両や輸送の話題だけでなく、安全対策、災害対策、騒音振動の防止、軌道・架線・車両の保守なども取り上げた新幹線史の決定版です。

団体名	神奈川新聞社 「横浜市電 1156 号修復プロジェクト」	〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部・齊藤大起（さいとう・ひろき） 携帯電話：090（9015）3707 メール：hi-saito@kanagawa-shimbun.jp 神奈川新聞ウェブサイト：「カナロコ」で検索→「LIFE」→「鉄道」

【団体の趣旨】

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を、修復・維持するとともに、2012 年 4 月から一般公開イベントを開催しています。

1156 号は横浜市電 1150 号型の最後の現存車であり、1972 年に全廃された横浜市電の保存車両の中でも、貴重な存在です。「街に市電が走っていたころ」を伝える貴重な遺産と位置づけ、横浜市や地元企業、市民の皆さんと協力しながら、後世に伝えるべく活動しています。

【保存の経緯】

2010 年末、神奈川新聞の記者が「1156 号解体」の知らせを聞き、横浜市にボランティアによる修復を申し出たことがきっかけです。その後、同公園近くの塗装業「サカクラ」が、地域貢献の一環として修復作業に全面的に協力してくれることになり、2011 年 11 月、1156 号の所有者である横浜市環境創造局、株式会社サカクラ、神奈川新聞社の 3 者が、市電保存に関する「覚書」を締結しました。また、相模鉄道には、座席シートなどの部品を、無償でご提供いただきました。

神奈川新聞社は、紙面を通じた広報や、修復に際しての時代考証、資料・部品の調達などを担当。サカクラは、板金やガラス加工、電気などの業者とともに大規模な工事を担当しました。修復は 2012 年 1 月から 4 月にかけて実施。内外の修復と再塗装に加え、ヘッドライトや室内灯の点灯も可能となりました。

【現在の活動】

2012 年 4 月の工事完成後も、「系統板受け」の取り付けやシートモケットの張り替え（朱色→緑色）など、より「現役時代」に近づけるべく、細かな修復を続けています。あわせて、1 カ月に 1 回の頻度で、清掃と車内公開イベントを開催しています。並行して、かつて市電に勤めていた方々への聞き取りや、神奈川新聞社などが所蔵する現役時代の市電の写真の保存活用も進めています。この秋以降には、横浜市の協力をいただき、電停標識や架線柱などの復元も行います。

【横浜市電とは】

1904（明治 37）年に開業した路面電車。最盛期には総延長５１．７９キロの路線を運行、年間 1 億 2 千万人を輸送したが、道路渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響で、1966（昭和 41）年から順次廃止され、1972（昭和 47）年 3 月 31 日を最後に全廃された。現存車両は、横浜市磯子区の「市電保存館」の 7 両のほか、横浜市内に4両（野毛山動物園、久良岐公園、県警交通安全センター、市立中田小学校）が残るのみ。（写真左：2011 年 9 月／2013 年 8 月）

上松町　赤沢森林鉄道

（経済産業省「近代化産業遺産群」一部認定）

〒399-5601
長野県木曽郡上松町大字上松 159-3
上松町観光情報センター内
上松町役場　産業観光課　商工観光係
TEL 0264-52-1133　FAX 0264-52-4180
E-mail hinoki@avis.ne.jp
URL
http://www.town.agematsu.nagano.jp/kankou/

ボールドウィン号生誕100周年記念イベントを開催しました

大正初期から昭和50年まで、木曽地方で木材の搬出に運用されていた木曽森林鉄道で花形として活躍していたボールドウィン蒸気機関車が生誕100周年を迎え、9月28日に記念イベント「木曽のポーは100歳！！」が開催されました。

製造されたアメリカでは蒸気機関車に女性代名詞を使うこと、汽笛の音などからイベントではボールドウィン号に親しみをこめて「ポーばあちゃん」と呼び長寿をお祝いしました。
しかしながら、現役時代には起伏の激しい森の軌道を、多くの木材を力強く運ぶ姿が印象的だったこともあり、当時を知る人からは「ボールドウィンは男性のイメージ」との意見も出ており、ポーばあちゃん・ポーじいちゃん論争が巻き起こっている（らしい）。

ボールドウィン号生誕100周年イベント

駅前を疾走するライブスチーム

この日はボールドウィン号が普段静態保存されている赤沢自然休養林から15kmほど離れた上松駅前周辺でも様々な催しが行われました。
趣味でボールドウィンのライブスチームを自主制作している方を招いて駅前ロータリーを走らせたところ、子供連れの人を中心に大賑わいとなりました。そのほか、ボールドウィンや森林鉄道にまつわる思い出の写真・物を多くの方から集めての展示や記録映像の放映も行われ、林鉄のスターが活躍していた頃を懐かしんでいました。

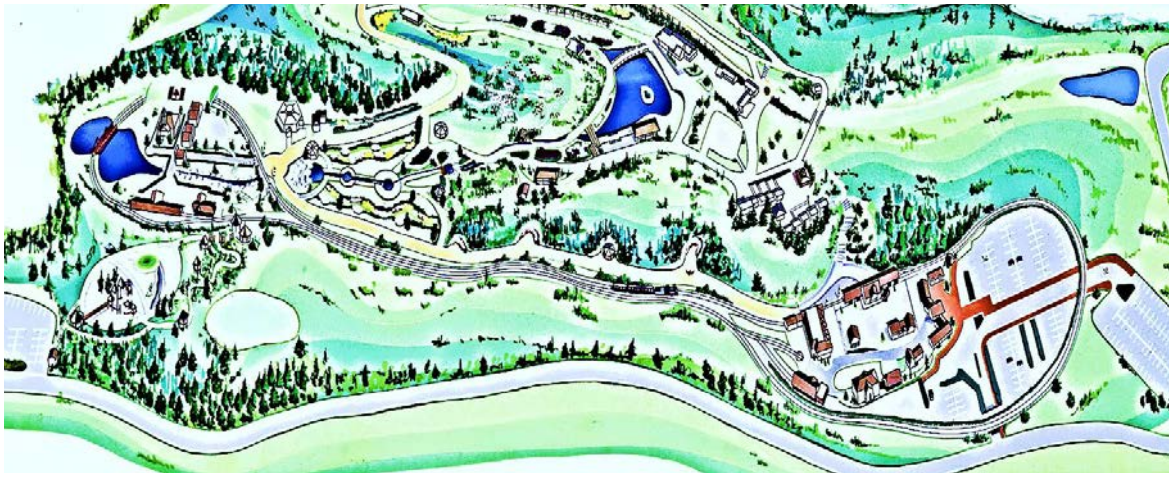
2013年度林業遺産選定

ボールドウィン

木曽森林鉄道は江戸時代から続く「河川を用いた木材運搬に代わり、大正初期に木曽谷に導入されました。
第2次世界大戦中は燃料となる石炭が不足し、代替燃料として木を燃やしましたが、これ以降は火の粉の飛散を防止するため、木曽オリジナルの巨大な煙突が蒸気機関車に装着されています。
蒸気機関車は昭和35年に退役。残った3両のうち2両は海を渡ってアメリカに里帰りし、1両が赤沢の森林鉄道資料館に静態保存されています。

伊豆修善寺　虹の郷

〒410－2416
静岡県伊豆市修善寺4279－3
(一財)伊豆市振興公社
TEL0558－72－7222
FAX0558－72－7133
E-mail　nijinosato2@vcs.wbs.ne.jp
URL　http://www.nijinosato.com/



虹の郷ロムニー鉄道は一周2．4kmの周回線路にロムニー駅とネルソン駅を配置。
園内移動遊覧鉄道としての営業をおこなっております。

乗車料金

大人	（中学生以上）	400円	※平常時30分間隔営業
小人	（4歳～小学生）	200円	混雑時は2編成にて15分間隔営業しております。

ロムニー鉄道の特徴

イギリス製蒸気機関車2両とディーゼル機関車2両の計4両を、日替わりで運行しています。

2編成営業時には蒸気機関車とディーゼル機関車がすれ違うタイミングがありまして、虹の郷ロムニー鉄道の見どころとなっております。晴れた日には車窓から富士山を望む区間があり、お客様から喜びの声を頂けることもあります。ぜひ、ご来園頂きまして富士山の見えるロムニー鉄道へご乗車ください。

CUMBRIA号

保有車両情報

蒸気機関車	NORTHRN ROCK Ⅱ	1－C－1	1989年製造
	CUMBRIA	1－C－1	1992年製造
ディーゼル機関車	JOHN SOUTHLANDO Ⅱ	B － B	1988年製造
	CITY OF BIRMINGHAM	0－C－0	1992年製造
展示機関車	ERNEST W TWINING	2－C－ 1	1949年製造
	C１１（金沢工業大学貸与)	1－C－2	1996年製造

団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 静岡県島田市金谷東2丁目1112-2 TEL 0547-45-4111（代表） TEL 0547-45-4112（鉄道ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ）

◎2014年度の話題

今年は7月からアジア初本物の蒸気機関車によるトーマス号の運転を実施しました。

C11227号蒸気機関車を改造し、トーマス号としました。

写真左の「ヒロ」は、千頭駅構内に留置中の49616号蒸気機関車を地元の方々がボランティアで作業し完成させました。

トーマス号の運転日には遠方からも多くのお客様がお越しになり、地域活性化に大きく貢献しました。
今年は10月13日が最終運転日で、その後は車両の検査を実施し、来年も本年同様夏期観光ｼｰｽﾞﾝにあわせて運転実施を予定しています。

◎運転車両

大井川本線(金谷～千頭駅間)
電車：元近畿日本鉄道16000系、元南海電気鉄道21000系
蒸気機関車　C108、C11190、C11227、C5644
客車　ｵﾊ35系　ｽﾊ43系　等
電気機関車　自社発注E10(昭和24年製)、元大阪セメントED50型

◎現在の列車運行状況

普通列車(電車)上下各8本／日
観光シーズン中は臨時列車も含め、SL列車は1日に最大3往復運転を実施
夏期には電気機関車でお座敷客車及び展望車を牽引する納涼ビール列車を運転

◎最近の話題

多くの方々からたいへん惜しまれつつ2014年2月に3000系電車が引退しました。

大井川鐵道公式ホームページでは、SL列車座席予約をはじめ、車両の紹介、各種割引乗車券、イベントの情報などをご案内しております。

http://www.oigawa-railway.co.jp/

■名古屋市　リニア・鉄道館

〒455-0848
名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
TEL　050(3772)3910（JR 東海）
http://museum.jr-central.co.jp

Information

○入館料
大人　1,000 円（団体 800 円）
小中高生　500 円（団体 400 円）
幼児（3 歳以上）　200 円（団体 100 円）
※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人 500　円、高校生以下 200 円

○休館日
毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始／12 月 28 日～1 月 1 日
（※春・夏・冬休みやＧＷは無休）

○展示
鉄道車両 39 両＋バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、シミュレータ、シアターなど

【高速鉄道の歴史を築いた車両ズラリと並ぶ館内】

【2014 年の記事】

○700 系新幹線実物車両展示（1/2～）

○企画展（～10/27　363 日間）
「夢の超特急」誕生！　～新幹線モデル線を振り返る～

○特別企画展（5/21～11/24　188 日間）
「東海道新幹線 50 年の軌跡」～誕生、進化、そして未来へ～

車両ガイドツアー

○東海道新幹線 50 周年記念特別講演会　(5/25,6/29,7/27,8/24,9/28,10/26,11/23 計 7 回)

○運転台特別公開
0 系（3/19～4/7,4/12～5/18 の土休日、9/6～10/26 の土休日）
100 系（1/2～13,18,19,25,26、7/16～9/1）
700 系（2/1～3/16 の土休日、5/24～7/13 の土日）

○車両ガイドツアー
キハ 181 及びクハ 381 の経緯・特徴（3/19～4/7, 4/12～5/18 の土休日）
新幹線車両の進化の歴史（5/21～7/14）
新幹線試験電車 300X（7/16～9/1）
東海道本線急行電車及び新幹線 0 系のグリーン車（10/1～27）

○新幹線のお仕事紹介
運転士編（6/1,8,15,22,10/4,5,18,19）
車掌編（9/6,7,13,14）　パーサー編（10/11,12,13）

きっぷの発券体験

○各種イベント
みどころガイド（1/2～3/17,4/9～5/19,9/3～9/29）
クイズラリー「鉄道の進化の歴史を探ろう！」
（3/19～4/7,4/12～7/13 の土休日,7/16～9/1,9/6～10/26 の土休日）
在来線シミュレータ運転教室（1/2～1/13,1/18～3/16 の土休日）
きっぷの発券体験（7/16～9/1）　ミニトレイン運転（5/17,18,10/18,19）
東海道新幹線開業式の一部再現（10/5）　など
JR 東海音楽クラブコンサート（4/20）　スギテツ＆JR 東海音楽クラブコンサート（10/12）

団体名	公益財団法人 博物館　明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山１番地 電話 0568-67-0314

近況報告

＜蒸気機関車＞

〇12 号機関車　　平成 25 年 10 月　　板バネ釣修理
　㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施
〇9 号機関車　　現在、大阪にて修理中　平成 27 年 3 月修理工事終了予定

＜ハフ 11・13・14＞

〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施

＜京都市電＞

〇平成 25 年 2 月　京都市電 2 号　車体改修工事を実施　平成 26 年 6 月　車体改修工事が完了
〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施

＜設備工事・点検＞

〇㈱メイエレックによる電路・電気設備点検を半年に 1 回実施
〇矢作建設（株）による鉄軌道点検整備を半年に 1 回実施

＜動態展示物（京都市電・蒸気機関車）を利用したイベント実績＞

〇ハフ de ランチ・・9 月 28 日(土) 5 名、9 月 29 日（日）14 名
　蒸気機関車の客車ハフ 11 にご乗車いただきながら、デミカツサンドウヰッチ
　をお召し上がりいただきました。
〇チンチン電車と綱引きしよう！・・9 月 22 日（日）80 名、10 月 19 日（土）31 名
　明治村の中を走る京都市電を、電力を使わずにみんなで力を合わせて綱で引っ張り動かしました。
〇蒸気機関車 9 号　特別展示・・9 月 21 日（土）、10 月 5 日（土）、20 日（日）
　現在、非公開となっている蒸気機関車 9 号を 3 日間限定で特別公開いたしました。※乗車不可
〇ＳＬ車掌体験・・10 月 12 日（土）9 名、14 日（月・祝）7 名
　ＳＬの転車作業や出発合図など、蒸気機関車の車掌体験をしていただきました。
〇ＳＬバックヤードツアー・・10 月 13 日(日)12 名、27 日(日)6 名
　通常は立ち入ることのできない蒸気機関車の車庫内を解説付で特別公開いたしました。
〇京都市電の運転体験・・7 月 19 日(土)8 名、7 月 20 日（日）14 名、7 月 21 日（祝）12 名
　京都市電の運転を約 50 メートルの区間体験していただきました。

チンチン電車と綱引きしよう！

京都市電の運転体験

蒸気機関車 9 号特別展示

長浜鉄道スクエア

旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・
北陸線電化記念館の総称

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番 41 号
Tel.0749－63－4091
Fax.0749－63－4011

旧長浜駅舎　明治 15 年 3 月 10 日、北陸線の始発駅として開業。現存する日本最古の駅舎。

長浜鉄道文化館　長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館。ヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくり。
ＨＯゲージのジオラマがあります。

北陸線電化記念館　Ｄ５１形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のＥＤ７０の１号機を展示。

旧長浜駅舎

平成 25 年度実績

年間入館者数　56,974 人（前年度 55,392 人）

夏休み企画「プラレールフェスティバル」	7月　4日 ～　9月　1日
ちびっこぬり絵展	9月22日 ～ 10月16日
全国梅ポスター展	1月　9日 ～　3月25日
新幹線開業５０周年「夢の超特急１００年」特別展	1月18日 ～　3月10日
「偉大なる、しゅららぼん」写真展	1月25日 ～　5月　6日
Ｎゲージ鉄道模型レイアウトのリニューアル	

平成 26 年度事業計画

夏休み企画「プラレールフェスティバル」	7月19日 ～　8月31日
ちびっ子ぬり絵展	9月19日 ～ 10月16日

平成 26 年 9 月 1 日付で、米山淳一氏が長浜鉄道スクエア名誉館長に就任

公益社団法人長浜観光協会
〒526-8501 滋賀県長浜市高田町12番34号
Tel. 0749－65－6521　Fax. 0749－64－0396
e-mail kankou@city.nagahama.shiga.jp　http://www.nagahamashi.org/

団体名　特定非営利活動法人
貨物鉄道博物館

事務局（三岐鉄道株式会社内）
〒510-8014 三重県四日市市富田3-22-83
TEL:059-364-2141
E-mail:frm_office@yahoo.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2013年度の活動経過

2013年度は、9月の開館10周年に合わせて、写真コンテスト・ヘッドマークコンテスト、記念列車、木造有蓋車ワ11形11・有蓋緩急車ワフ21000形21120修復披露イベント、公式ガイドブック（領価1,050円）等発行、グッズ発売、バスツアーなどの記念事業を行った。

貨物鉄道博物館10周年記念列車と
修復披露のワフ21120・ワ11
2013年10月6日

■2014年度の活動計画

2014年度は、収蔵車輌のうち劣化した鋼製車輌の再塗装他修繕を行う。

タム500形2926　修繕作業
2014年9月7日

◆2014年度定期開館日

2014年4月6日（日）、5月4日（日）、6月1日（日）、7月6日（日）、8月3日（日）、9月7日（日）、
10月5日（日）、11月2日（日）、12月7日（日）、2015年1月11日（日）、2月1日（日）、3月1日（日）

団体名	西日本旅客鉄道株式会社 (公財)交通文化振興財団	〒552-0001 大阪市港区波除3-11-10 TEL 06-6581-5771

(公財)交通文化振興財団は、梅小路蒸気機関車館の運営を行っています。当施設は、国内唯一の蒸気機関車の専門館として鉄道開業100年にあたる昭和47年に日本国有鉄道によって開設されました。蒸気機関車の整備や「SLスチーム号」の運行を行っており、施設の一部は重要文化財指定を受けています。また、当財団が運営しておりました交通科学博物館は、本年4月で営業が終了し、半世紀に及ぶ長い歴史に幕を閉じました。現在は、JR西日本と共に新たな「京都鉄道博物館」の開館に向けて、収蔵資料の整理、展示計画の策定の他、実物展示車両の移設準備や搬出作業を行っています。

▲総入館者数800万人達成記念ヘッドマークの取り付け

○梅小路蒸気機関車館

普段の生活では馴染みの薄い蒸気機関車について興味や関心をもっていただけるよう、催しを定期的に開催しています。今年度は、7100形蒸気機関車「義経号」の動態展示が可能となるように整備を進める等さらに充実した施設となるように努めています。

昨年度は、総入館者数が800万人を達成し11月に記念セレモニーを行いました。その他、企画展「切手で見るいろいろなSL」や「昭和20年代の鉄道」等を実施しました。その他、鉄道と縁のあるタレントを招き講演会を行い好評を博しました。また、ご家族で楽しめる催し物として京都水族館と共同でスタンプラリーを実施しました。

▲企画展「切手で見るいろいろなSL」

▲企画展「昭和20年代の鉄道」

▲タレントで元国鉄職員
田中要次氏によるトークショー

○交通科学博物館(現在閉館中)

▲0系新幹線電車(22－1)

交通科学博物館で保存されていた0系新幹線電車4両は、東海道新幹線開業時より活躍してきた車両で、各形式のトップナンバーです。この保存車両は、平成19年に日本機械学会により「機械遺産」に認定されました。さらに、平成20年10月、鉄道記念物に指定され、平成21年10月には国立科学博物館の「重要科学技術史資料」としても登録されました。また、今年は東海道新幹線開業50周年を迎え、当車両の資料としての価値・注目度はますます高まっています。その他、実物資料を含む交通関係資料は、京都鉄道博物館へ移設に向けて現在、整備を行っています。

博物館開館中は、定期イベントである「ミュージアム探検ツアー」「ミニ列車運転会」「模型鉄道パノラマ」等の実施の他、「さよなら企画展」と題し様々な収蔵品を展示したコレクション展や当館の52年の歴史をふりかえる企画展を実施しました。また、JR西日本の協力を得て現場に保管されている図面や備品等の収集保存を行い更なる資料の充実を図っております。その他、明治期に完成し現在まで使用され続けている駅舎や橋りょう、トンネル等の調査も有識者の協力を得ながら現在も進めております。

団体名	加悦ＳＬ広場 宮津海陸運輸㈱	〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2 TEL 0772-42-3186 FAX 0772-43-0080 URL http://www.kyt-net.jp/kayaslhiroba/

近 況

■ ハ10号 客車(大阪梅鉢鉄工所 製) 修復作業中

ハ10号 客車

大正15年11月 大阪梅鉢鉄工所製

車体:木造、ダブルルーフ 定員78人

与謝野町 指定文化財:加悦鉄道車両群

車歴

大正15年12月～昭和43年8月

走行キロ 619,360km

昭和45年12月31日 休車

平成5年7月～平成6年12月に大修理

2等室、3等室を復元

加悦鉄道の創業時より稼働し当地域では唯一のボギー客車でした。

■ 展示車両の塗装・小修繕

ポーター103号蒸気機関車、
ハブ3号 客車

■ 加悦鐵道保存会 協力のもと、ライブスチーム運行を各月に実施

■ 平成25年11月SL広場「周年祭」 及び 平成26年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

■ 平成26年度 SL広場「周年祭」 平成26年11月2日(日)～3日(月) 開催予定

※再現列車乗車会は2日(日)のみ、与謝野町 近隣団体等との連携イベント「滝・金屋地区 秋の大感謝祭 」共催

加悦鉄道再現列車 運行の様子

ライブスチーム 運行の様子(初夏の加悦鐵道まつり)

今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存・維持に取り組んで参ります。

特定非営利活動法人

加悦鐵道保存会

〒629－2403
京都府与謝野町加悦433番地　旧加悦鉄道加悦駅舎
TEL/FAX　0772(43)0232
HP　http://kayatetsu.web.fc2.com/

■2013年10月～2014年9月までの主な活動

ちりめん街道まるごとミュージアム
協賛出展

京都府より「地域力再生功労者団体」
として表彰されました

関西学院大学鐵道研究会
夏季合宿受入

○　2014 年 9 月現在、会員数は45名、年齢は 14 歳から 84 歳と幅が広いですが、自分が出来る範囲内で楽しみながら活動しています。

○　ホームページのご案内
より詳しい作業状況やイベント情報、オリジナル商品の情報が満載です。
http://kayatetsu.web.fc2.com/

催事での「加悦鉄道再現列車」運転

全国近代化遺産
活用連絡会フォーラムに参加

団体名　　ふるさと鉄道保存協会

事務局　〒674-0051
兵庫県明石市大久保町大窪 818-3　中井方
TEL　090－3896－1046
E-mail　furutetu1999@yahoo.co.jp
URL　http://furutetu.web.fc2.com/

貴重な車両など鉄道遺産の保存、活用のための各種活動を行うボランティア団体です。

【最近の活動】

★本部

●ディーゼル機関車DB20、貨車を金屋口鉄道保存会様に譲渡
和歌山県有田川町鉄道公園で動態保存

●軌道自転車を伊賀鉄道（株）様に譲渡
上野市車庫で「伊賀線まつり」開催日の体験乗車などに活用

★ちゃりトロワーキンググループ

●軌道用モーターカーの活用（栃木県日光市）

★鉄道郵便ワーキンググループ

●鉄道郵便車オユ 10　2565 一般公開
「鉄道郵便車フェスティバル 2014 スプリング」
「鉄道郵便車フェスティバル 2014 オータム in のと鉄道フェスティバル」
駅係員案内による平日公開、のと鉄道利用ツアーへの公開

★ヨ 9001 ワーキンググループ

●高速設計車掌車ヨ 9001 の保存公開（福岡県赤村）

平成 26 年度　片上鉄道保存会
活動報告

片上鉄道保存会 代表幹事 石田 協
〒 736-0081 広島市安芸区船越 2 丁目 26-5

平成 26 年 1 月 5 日展示運転

平成 26 年度の主な活動は、黄福柵原駅開業に向けた保線・車両整備・景観整備・システム保全などがほとんどでした。
テレビ・新聞などへも度々紹介され、弊会の取り組みが注目された一年でもありました。

◆H26 年度主な作業内容
・車両系
ラジエータや放送装置などの補修や塗装の補修など、保線に重点を置いていたため、修理が中心となる作業が多かったです。
電気配線の老朽化など、現役当時のものの限界が気になっています。

キハ 702 ラジエータ漏水補修と放送設備修理、表記入れ

黄福柵原駅付近での作業が中心

・保線・設備系
黄福柵原駅延伸工事（継続）
線路延伸に伴う信号システムの更新（継続）
・安全対策
ソフト面を重点的に対策

岡山県のパンフレットやスタンプラリーで紹介

新聞掲載

◆その他
・岡山県のパンフレットや地域連動の企画などに紹介されることが多くなってきました。
・新聞・雑誌・テレビにも紹介されることが多くなりました。

◆駅長猫コトラとホトフ
コトラとホトフは、特に変わりなく、お客様を和ませております。
おかげさまで、駅長猫が勤務するのが 2002 年より 12 年目となりました。

～月に一日汽車が来る駅 吉ヶ原～　～思い出を未来へ～片上鉄道保存会

若桜駅を元気にする会	〒680-0701 鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5 若桜町役場企画財政課内 TEL0858-82-2231FAX0858-82-0134 e-mail:kikaku@town.wakasa.tottori.jp

トロッコ列車を活用した乗車体験

2013年度の活動経過

蒸気機関車(C12-167)やディーゼル機関車(DD16-7)の運転体験、トロッコ列車(元長野電鉄無蓋車ﾄ6)の乗車体験、旧国鉄12系客車内(ｵﾛ12-9、ｽﾛﾌ12-3、ｽﾛﾌ12-6)での田舎料理バイキングの開催などにより、若桜駅周辺は多くの観光客で賑わっています。

若桜駅を元気にする会では、若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力などにより、若桜駅と沿線地域の振興に取り組んでいます。

【SL・DL運転体験】

場　所:若桜駅構内　SL走行線
内　容:実務講習(運転取扱及び車両の構造を図面、写真で講習)
　　指導講習(主任運転士による見本運転　1往復)
　　体験運転(教官がついての実車運転　2往復)
料　金:12,000円
開催日:SL　4・6・8・10月の第3土曜日
　　DL　5・7・9・11月の第3土曜日
その他:事前のお申し込みが必要です。詳しくは若桜鉄道(株)にお問い合せください。

【SL走行日】

場　所:若桜駅構内
料　金:入構料300円、トロッコ乗車体験200円
開催日:4月～11月の第2・4日曜日、5月のゴールデンウィーク、お盆

今後の活動計画

引き続き、若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力など沿線地域の活性化に積極的に取り組みます。

また、本来の目的である観光列車の運行実現に向け、関係機関との連携を強化し、調査・研究・要望活動を行います。

SL（C12-167）、DL（DD16-7）、旧国鉄12系客車
（左から）

団体名	山口線SL運行対策協議会	連絡先 〒753-8501 山口県山口市滝町１－１（山口県観光振興課内） TEL：083-933-3160　FAX：083-933-3179 E-mail：c571@c571.jp　HP：http://www.c571.jp/

SL「やまぐち」号全線運転再開

７月28日の豪雨災害により、部分運行となっていた山口線が8月23日に全線運転再開しました。これにより、SL「やまぐち」号は新山口駅から津和野駅までの運行となります。

1　SL列車の運転

新山口駅発、津和野駅着として、１日１往復を運転します。

下り

新山口駅：10時48分発～津和野駅：12時58分着

（途中停車駅：湯田温泉、山口、仁保、篠目、長門峡、地福、鍋倉、徳佐）

上り

津和野駅：15：45分発～新山口駅：17：30分着

（途中停車駅：徳佐、鍋倉、長門峡、篠目、山口、湯田温泉）

2　26年度の運行日程

・８月23日以降は、８月末までの金土日の5日間を重連運転での運行

・9月～11月23日（日）までの土日祝日の28日間をC571号機で運行

【山口線全線運転再開日の様子】

８月23日は、JR新山口駅で全線運転再開記念式典の後、SL「やまぐち」号の出発式が行われました。来年の大河ドラマ「花燃ゆ」の出演者の優香さん、大野拓朗さんがSL「やまぐち」号に乗車され、イベントを盛り上げてくださいました。

※写真は全線運転再開のヘッドマークを装着したSL「やまぐち」号

【山口線SL運行対策協議会】

(1)事　業　　安全対策、環境対策、宣伝対策、その他

(2)会　員　　JR西日本、山口県、島根県、山口市、津和野町

(3)事務局　　山口県商工労働部観光振興課

(4)協議会の発足　昭和54年1月16日

ご当地ちょるる／SL「やまぐち」

【SL「やまぐち」号】

(1)運行開始　　昭和54年8月1日～

(2)運行区間　　新山口駅―津和野駅（62．9km、約2時間）

(3)定　　員　　360人

(4)客　　車　　①展望車風（56）②欧風（80）③昭和風（80）④明治風（72）⑤大正風（72）

愛媛県西条市 **鉄道歴史パーク in SAIJO**	〒793-0030 愛媛県西条市大町 798-1 TEL0897-47-3575　FAX0897-53-6200 E-mail　kanko@saijo-city.jp

四国鉄道文化館に南館がオープン！（2014 年 7 月 20 日）

愛媛県西条市の JR 伊予西条駅隣にある四国鉄道文化館に、新たに南館が誕生しました。

2007 年 11 月の開館以来、27 万人以上の来館者に訪れていただきましたが、このたびの南館の誕生によっていっそうの集客が期待されます。

（7 月 20 日～9 月 30 日の入館者は　23,796 人）

オープンした南館と屋外展示のフリーゲージトレイン

C57-44 号機ほか展示車両が充実

南館には、C57 形蒸気機関車、キハ 65 形急行用気動車、DE10 型ディーゼル機関車、フリーゲージトレインの 4 車両を展示。また四国の沿線風景を再現した鉄道模型レイアウトは、実際に使用されていた運転台で列車運転体験ができます。

南館展示車両（左から C57-44、キハ 65-34、DE10-1）

このほか、鉄道標識や信号機、車両の台車の実物など、鉄道文化を楽しく学べる展示内容となっています。

第 4 代国鉄総裁・十河信二氏ゆかりのまち「西条市」

十河信二氏胸像（十河信二記念館展示）

「新幹線生みの親」とも言われる十河信二氏は、西条市長も務めた「名誉市民」でもあります。市ではパーク内に「十河信二記念館」を整備し、「夢の超特急」東海道新幹線の開通に尽力した氏の功績と人間的な魅力を紹介しています。また、四国鉄道文化館 北館には「0 系新幹線電車」を展示しています。

多彩なイベントを開催中！

2014 年 10 月 1 日の東海道新幹線開通 50 周年にあわせて各種イベントを実施しました。

〇追憶の『十河信二』写真展

〇フリーゲージトレイン車内公開

〇ミニＳＬ（総延長約 235m）乗車会　ほか

北館に展示の 0 系新幹線と DF50-1

今後も楽しいイベントを計画中です。みなさまのお越しをお待ちしています。

【鉄道歴史パーク in SAIJO】

エリア内には「四国鉄道文化館 北館」「四国鉄道文化館 南館」「十河信二記念館」「観光交流センター」の 4 つの施設があります。

〇開館時間：9 時～18 時　　〇休日：水曜日（観光交流センターは無休）

〇入館料：（四国鉄道文化館　両館共通）大人 300 円、小中学生 100 円、就学前児童　無料

団体割引有（20 名以上：2 割引）

馬路村 魚梁瀬（やなせ）森林鉄道

〒781-6202
高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所
TEL：0887-43-2211　FAX：0887-43-2208
E-mail：yanase@mb.inforyoma.or.jp
URL：http://www.umajimura.jp/

～注目を集める林鉄～

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治４４年に、国内３番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正６年には本線終点の石仙まで軌道が延びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長２５０km といわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

この鉄道は、林業の繁栄をもたらしただけでなく、地域で暮らす住民たちの唯一の交通機関でもあり、生活物資や文化までも運んだかけがえのないものでした。中でもガソリン車は『ガソ』と親しみを込めて呼ばれていました。

しかし、昭和３２年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。３３年から軌道の撤去がはじまり、３８年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成２１年に橋梁や隧道など１８箇所（馬路村内では４箇所）が国の重要文化財の指定をうけました。また、同年に経済産業省の近代化産業遺産群にも９基（馬路村内では２基）が認定されました。

広域（馬路村を含めた５ヵ町村）で国の重要文化財の指定をうけるのは、我が国初のことです。

現在、貴重な観光資源としても活用され、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

●馬路森林鉄道

実物の３分の２の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約３００ｍの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路　馬路温泉前
◎運行日／日、祝日 8 時 30 分～16 時
［８月は毎日運行］
◎料金／乗車大人４００円など
◎お問い合わせ／馬路温泉
TEL:0887-44-2026

●魚梁瀬森林鉄道

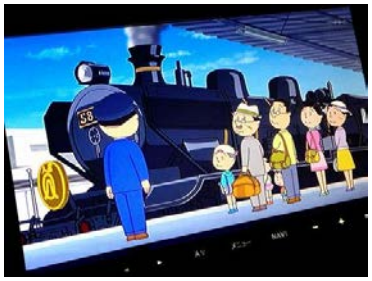
魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬　丸山公園内
◎運行日／日、祝日 9 時 30 分～12 時、13 時～15 時 30 分
（11 月～3 月は 15 時まで）［８月は土曜も運行］
◎料金／乗車大人４００円、運転体験１，０００円など
◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所
TEL:0887-43-2211

団体名	九州旅客鉄道株式会社	連絡先（住所・電話等） 〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 TEL 092-474-2541　Fax 092-474-3898

ＳＬ人吉、今年も快走！

100 レイルの肥薩線を走る 8620 形蒸気機関車「ＳＬ人吉」は、今年も多くのお客さまにご利用いただいております。メディアにも注目され、国民的アニメである「サザエさん」にも登場しました。



「ななつ星 in 九州」１周年

平成 26 年 10 月 14 日、「ななつ星 in 九州」が、多くのお客さま、地域の皆さまに愛され、運行開始後 1 周年を迎えました。1 年間で、1,303 組 2601 名のお客さまにご乗車いただき、先ごろ募集した平成 26 年 12 月～平成 27 年 2 月の運行について、平均倍率 33 倍のお申込をいただくなど、大変ご好評をいただいております。

２０１５年夏より、新しいＤ＆Ｓ列車を運行
『或る列車』の模型をベースにデザイン

平成 27 年夏、新しいＤ＆Ｓ列車の運行を開始する予定です。車両は、横浜市の原鉄道模型博物館を開設された、故原信太郎氏の愛した幻の客車「或る列車」の模型を元に、1 分の 1 サイズの「或る列車」を製作します。原信太郎氏の熱い思いを継ぎ、原鉄道模型博物館副館長の原健人氏の監修の元、ドーンデザイン研究所の水戸岡鋭治氏がデザイン・設計しています。

【或る列車】　1906 年（明治 39 年）に、九州鉄道がアメリカのブリル社に発注した豪華な客車です。窓の上部にはステンドグラス、内装にはマホガニー、特別車にはピアノが設置されていました。1907 年に納車されたときには、九州鉄道は国有化されており、使われることのなかった幻の客車です。

北九州線車両保存会

福岡市東区香住ヶ丘７丁目２－１
香椎花園内　レトロ電車パーク
電話　080-6412-1666（代表手嶋）
http://kitakyuushuusen.main.jp/

平成 26 年度 活動報告

北九州線車両保存会は平成 13 年に結成した任意団体で活動から 14 年目となります。
平成 13 年に西鉄北九州線のさよなら電車になった 621 号を購入し、のちに土佐電より元北方線 324 号を購入、平成 24 年より西鉄香椎花園へ設置し週末の公開を行っております。
今後も西鉄軌道線の歴史を伝える活動を続けてまいります。

施工後：鮮やかな西鉄旧塗装に塗分け位置など考証復元

148 号全塗装　H26 年 3 月施工

北九州市門司区門司港レトロで北九州市所有、保存会管理の 148 号を全塗装。
塗料、パテなど 10 万円分現物支給、保存会により施工実施。

施工中：パテ付け、研磨作業

カットモデルで 1/3 を保存

211 号全塗装　H25 年 12 月

代表自宅の大牟田線211号を勢いで修復、全塗装。

H26 年 1 月に車内公開を実施

公開状況

621 号　324 号　香椎花園開園日土曜日曜祝日
148 号　門司港レトロ地区　毎週日曜日 **3** 月～**11** 月

※ 参 考

七百検修庫：青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

団体名　七百レールファンクラブ　　会長自宅：青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2
会長：斎藤正

七百鉄道記念館準備室
事務取扱方：埼玉県さいたま市緑区東浦和7-4-12-103
氏名：野田　悟
連絡先：070-6528-2629
メール：shichihyaku@wcn.ne.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄株式会社の旧：七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧：七百駅周辺の住民が中心となりレールファンクラブ発足
平成26年に旧：七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入
現在「七百鉄道記念館」として開館準備中

【現有車両】
モハ3401＋モハ3603

ED301＋トラ301＋トラ302＋ED402

【現有建物】
旧：七百駅舎
旧：七百検修庫

旧：七百変電所

現時点ではまだ公開出来る状態ではありませんが、今後は整備の上、「七百鉄道記念館」として年に数回程度、一般公開できればと考えております。

日 本 鉄 道 保 存 協 会
100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1
新国際ビル 903 号　公益財団法人交通協力会気付
電話 03 6269 9808　FAX 03 6269 9809
URL: http://www.rpsj.jp
Email: rpsj.tetsudo.hozon@gmail.com